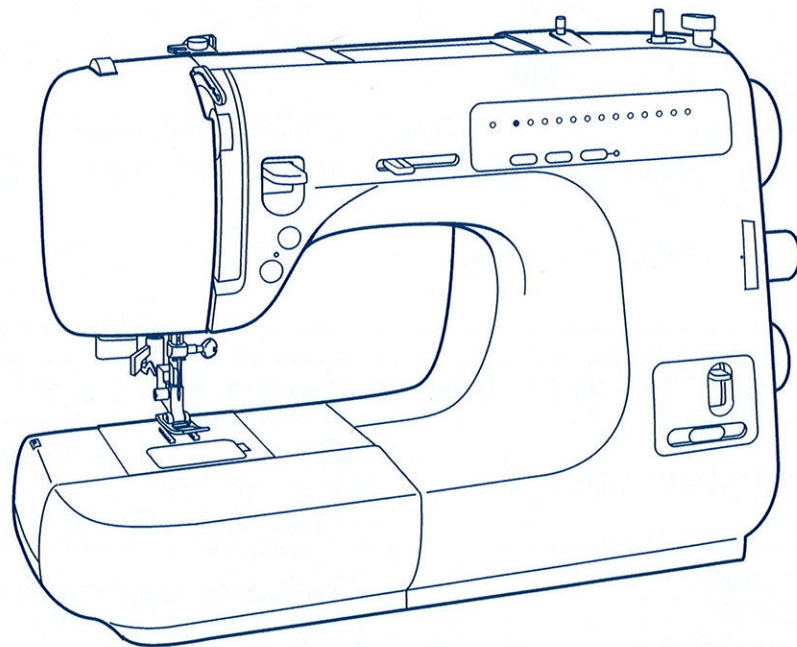


baby lock **COMPANION 6200**



使用の手引き









- ★ご使用前にこの『使用の手引き』を十分お読み下さい。
- ★この『使用の手引き』は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管して下さい。

＝ 安全にご使用いただくために ＝







- ◎ご使用の前に、この『安全上の注意』をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◎お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。

絵表示について














この『安全上の注意』では、使用者が製品を安全に使用できるように、誤った取り扱いをする事によって生じる内容を次のような絵表示によって区分しています。いずれも重要な内容ですので必ず守ってください。

-  **警告:** 取り扱いを誤った場合、人が死亡又は重傷を負う危険が生じる事が想定される内容を示しています。
 -  **注意:** 取り扱いを誤った場合、人がケガをしたり、物的損傷が発生したりする恐れがある内容を示しています。
- 絵表示の例   
-  記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。
 -  記号は使用者の行為に注意を呼びかける内容であることを告げるものです。図の中に具体的な禁止内容が描かれています。
 -  記号は使用者の行為を指示強制したりする内容であることを告げるものです。図の中に具体的な指示内容が描かれています。

警告 感電、火災の恐れがあります

 禁止	一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。	 プラグを抜く	コンセントから抜く時は、必ずアダプターを手で持って抜いてください。コードは引っ張ると内部で脱線し、焼けることがあります危険です。
 注意	以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。 ・ミシンのそばを離れる時 ・ミシンを使用した後 ・ミシン使用中に停電した時	 禁止	コードは無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったりしないでください。コード内部で脱線し、焼けることがあります危険です。
 感電注意	ミシン、電源コード、電源プラグ等を水に濡らしたり、水に落としたりしないでください。万一、濡れた場合は使用しないでください。	 分解禁止	お客様自身での分解、改造はしないでください。

注意 感電、火災、けがの原因となります

 <p>禁止 ミシンの内部に異物やドライバーなどを差し込まないでください。</p>	 <p>注意 お子様がお使用になる時や、お子様の近くで使用される時は、特に安全に注意してください。</p>
 <p>禁止 ミシンには正規の部品(ボビン・針等)をご使用ください。</p>	 <p>禁止 以下のことをする時は、電源スイッチを切ってください。 ・針を交換する時 ・上糸、下糸をセットする時</p>
 <p>注意 最初のひと針は、必ずプーリーを手で回し、布に針が刺さった状態から、初めて操作してください。</p>	 <p>注意 ミシンを動かす時は、蓋カバーを閉じてください。</p>
 <p>注意 ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、プーリー、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。</p>	<p>ミシンに以下の異常がある時は、すみやかに使用を停止し、お買い求めの販売店、または販売元で点検、修理、調整をお受けください。</p>  <p>禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正常に作動しない時 ・水に濡れた時 ・落下などにより破損した時 ・電源コード、プラグ類が破損、劣化した時 または異常に熱くなった時
 <p>禁止 曲がった針はご使用にならないでください。</p>	
 <p>禁止 縫う時は布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。</p>	
 <p>禁止 シンナー、ベンジン等で拭いたりしないでください。</p>	
 <p>注意 最初にミシンを使用するときは、押え金の下に布切れを置いて、糸を使用しないで、ミシンを操作し十分に油気を取り除いて下さい。</p>	 <p>注意 ミシンにほこりがたまらない様にしてください。</p>

「自動停止装置」について

- ◆ このミシンは、誤った操作などをしたとき、自動的に運転を止める安全装置がついています。
- ◆ たとえば、縫製中に糸がかまにくい込んだりしたようなとき、安全装置がそれを感知し、3秒以内に自動的に電流を遮断し、モーターを止めます。
- ◆ モーターが止まったら、糸がらみなどミシンを止める原因となったものを取り除いてください。

※ 製品のデザイン、仕様は改良のため予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

も く じ

1. ご使用になる前に

各部の名称	2 ~ 4
電源のつなぎ方	5
操作スイッチ	6
スピードコントロール	7
糸ごまのセット	7
押え上げ	7
押え圧力の調節	8
送り歯調節レバー	8
フリーアーム(筒縫いのしかた)	8
返し縫いレバー	9
縫い模様選択パネル	9
縫い目長さ・スーパー切換えダイヤル	9
スーパー縫い模様切換えレバー	10
ジグザグ・基線切換えレバー	10
下糸の巻き方	11 ~ 12
ボビンのセット	12
針と糸の使い方	13
針のとりかえ方	13
上糸のかけ方	14 ~ 15
自動糸通し器の使い方	15
下糸の引き上げ方	16

2. さあ縫ってみましょう

ミシンのセットのしかた	17 ~ 18
直線縫い	19 ~ 24
縫い方向の変え方、仮縫い(しつけ縫い)	21
ファスナーつけ、パイピング	22
縫いにくい布地の縫い方	
薄物・厚物・段縫い	23
上糸調子のとり方	24
押えのとりかえ方	24
ジグザグ縫い	25
サテンステッチ(密着縫い)	25

かくし縫い(ブラインドステッチ)	26
点線ジグザグ縫い	
裁ち目かがり、つくろい縫い	27
つき合わせ縫い	28
シエル縫い	28
ファゴティング縫い	28
スーパー縫い(ストレッチステッチ)	29 ~ 31
直線伸縮縫い・ジグザグ伸縮縫い・ オーバーロック縫い・スモッキング縫い・ エラスチックオーバーロック縫い・ フィッシュボーン縫い・パインリーフ縫い・ アローヘッド縫い・オーバーエッジ縫い・ フェザー縫い・ウエーブ縫い・ ウィッシュボーン縫い・二重ロック縫い・ ヘリボン縫い	
飾り縫い	32
ボタンホール(ボタン穴かがり)	33 ~ 35
その他のアクセサリーの使い方	36

3. ミシンのお手入れ

送り歯とかまの掃除	37
電球の取りかえ	38

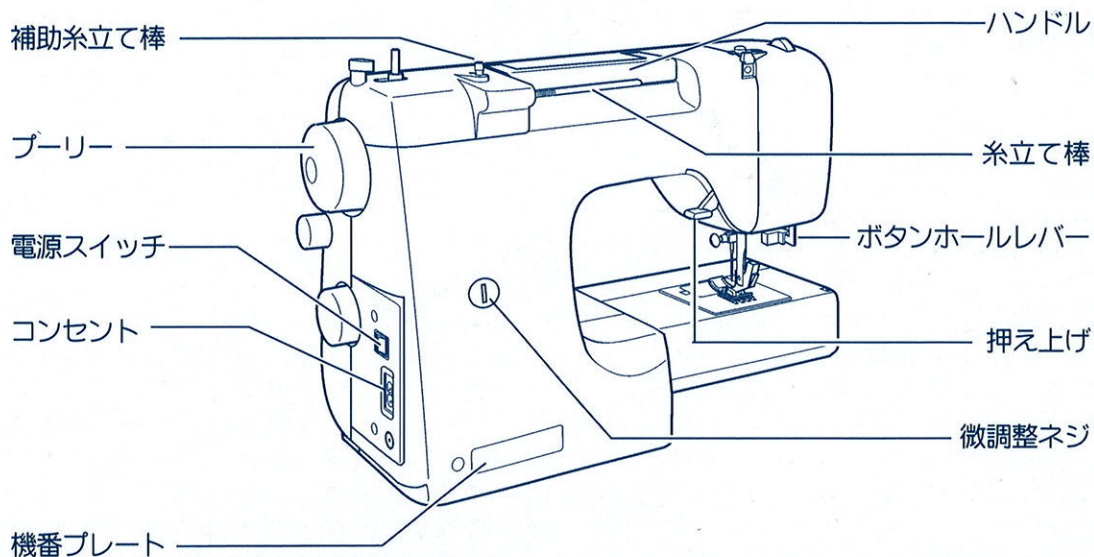
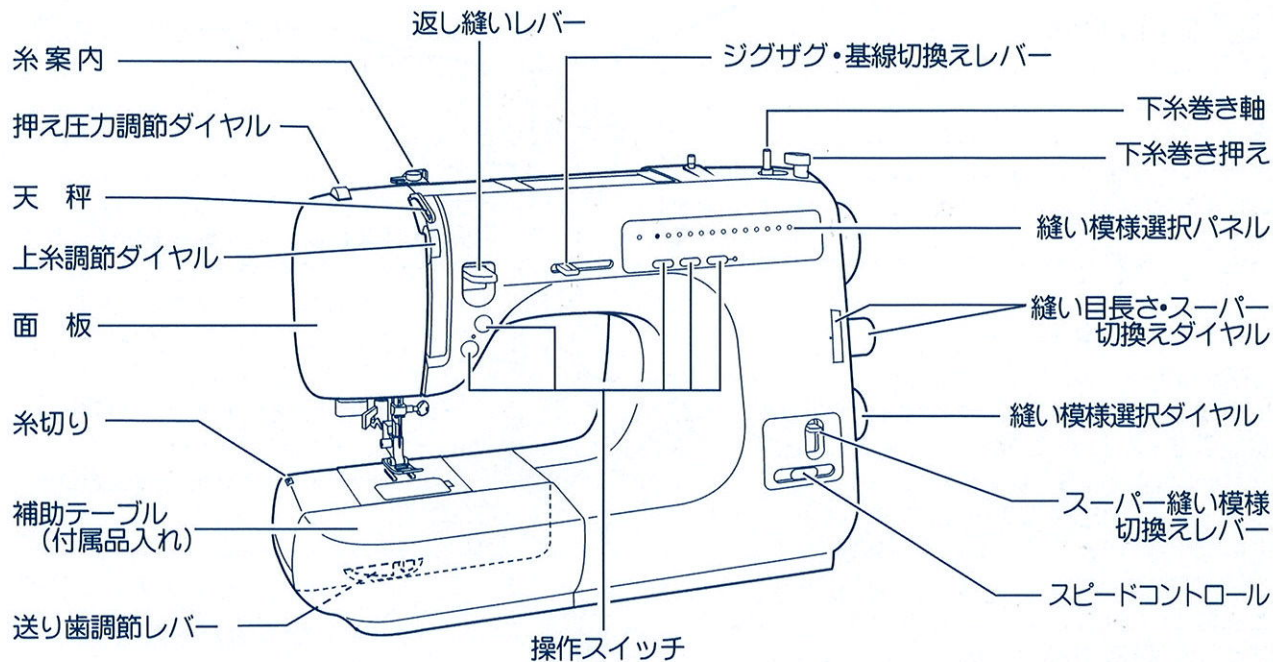
4. ミシンの調子が悪いとき、 次の原因を確かめましょう ... 39 ~ 40

ミシンの仕様

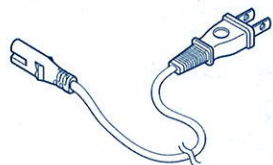
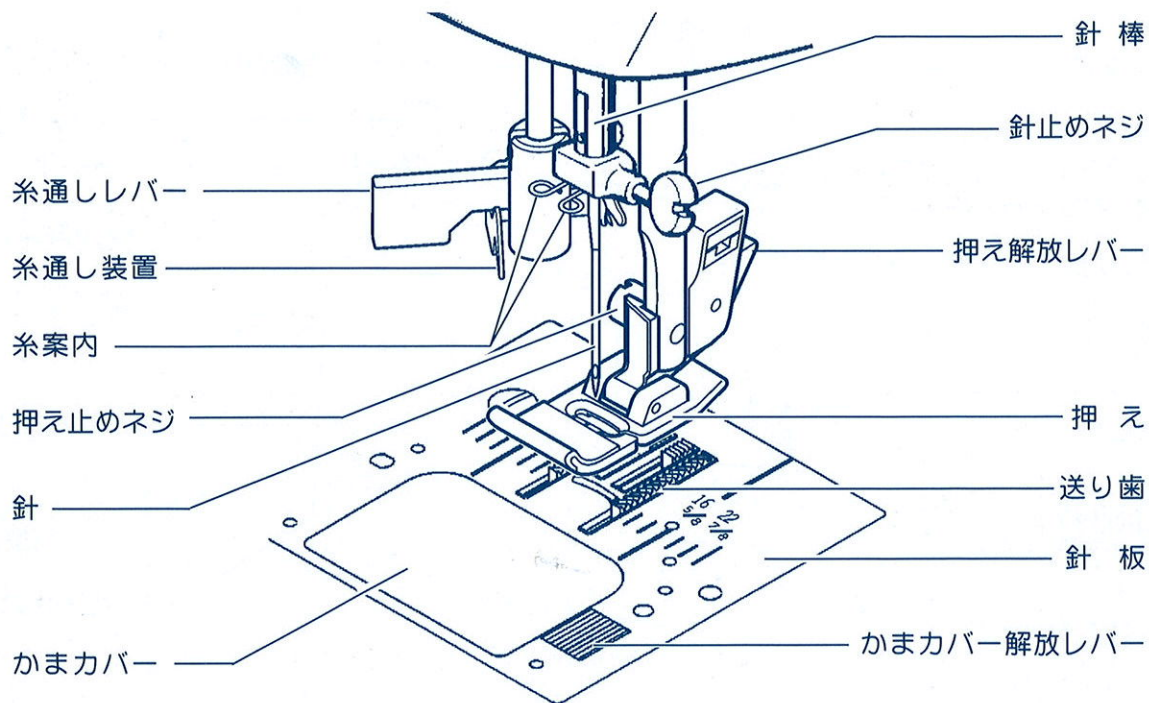
本体寸法	: 巾41×奥行17×高さ30(cm)
本体重量	: 7.3 kg (補助ベッド付き) 8.8 kg (キャリングケース付き)
定格電圧	: AC100V
定格消費電力	: 70W
定格周波数	: 50/60Hz

1. ご使用になる前に……

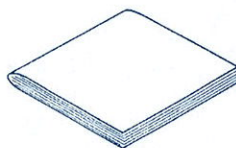
各部の名称



(各部の名称)



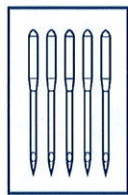
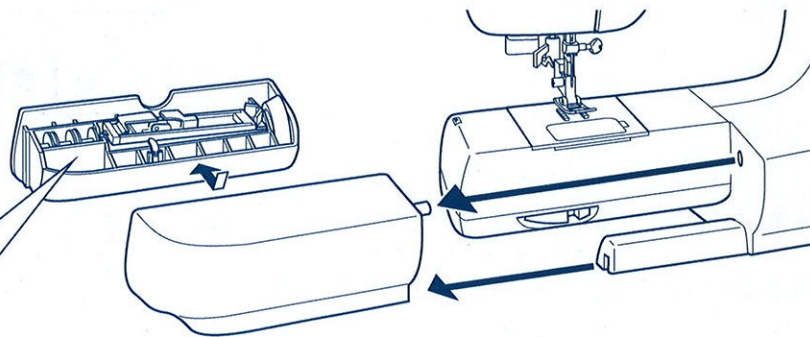
電源コード



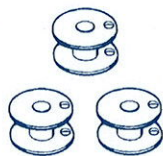
説明書

(各部の名称)

図の様に付属品入れを左に引き出し、ふたを開けると付属品が入っています。



針セット
(#14×5本)



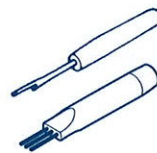
ボビン
(×3)



糸ごま押え
(大)



糸ごま押え
(小)



シームリッパー/
ブラシ



ネジ回し(大)



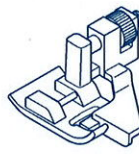
ネジ回し(小)



ミシン油



直線押え



かくし縫い押え



ファスナー押え



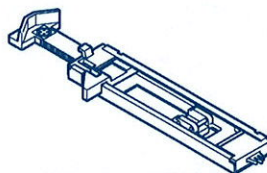
ローラー押え



サテン押え

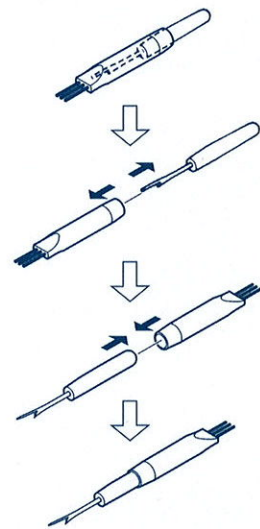


端縫い押え



ボタンホール押え

シームリッパー/ブラシ



電源のつなぎ方

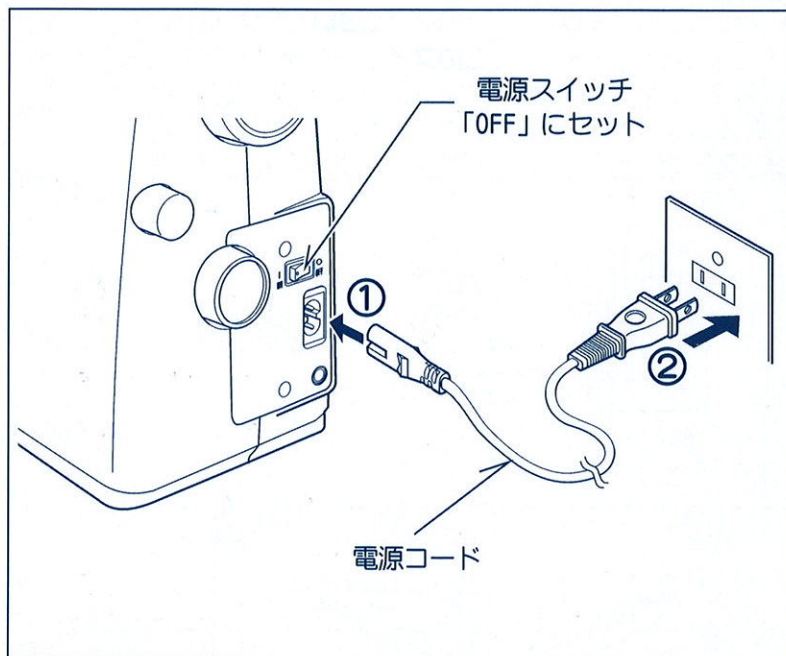


ミシンを使用しないときは、必ず電源スイッチを切り、電源コードを電源から抜いてください。

電源スイッチを「OFF」にしてください。

電源コードのプラグを①、②の順にさしこみます。

電源スイッチを「ON」にして電源をいれます。
(同時に照明ランプが点灯します。)



操作スイッチ

◆ スタート・ストップスイッチ

電源スイッチを「ON」にした後、このスイッチを押すとミシンが動き出します。もう一度押すと、針は常に上に上がった位置で止まります。

◆ ゆっくりすすむスイッチ (最低速縫い・停止スイッチ)

ミシンが動いているときにこのスイッチを押すと、瞬時に速度が落ちゆっくり縫い始めます。押している間だけゆっくり動き続け、スイッチから手をはなすとミシンは停止します。

(注) このスイッチはミシンをスタートさせるスイッチではありません。

◆ ベースティングスイッチ (一針縫い)

電源スイッチを「ON」にします。
このスイッチを押すと、一針だけ縫い停止します。

◆ 針上・下停止スイッチ

電源スイッチを「ON」にします。
このスイッチを押すと、針が最下点で止まります。
もう一度押すと、針が最上点で止まります。

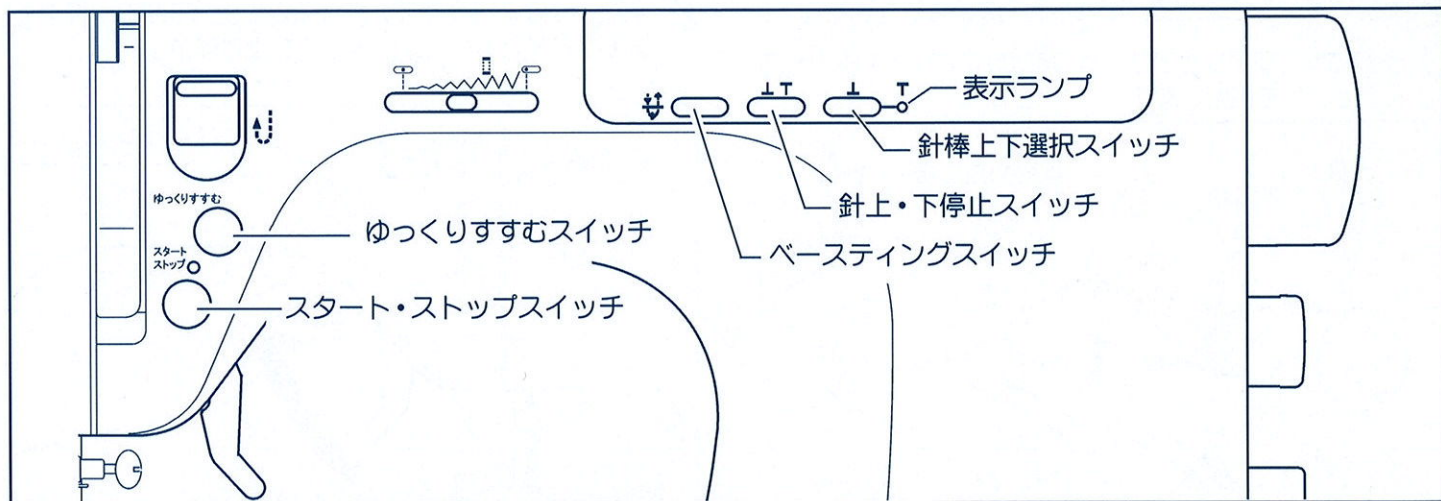
◆ 針棒上下選択スイッチ

このスイッチは、針が常に最下点で止まるように設定することができます。

まず電源スイッチを「ON」にし、針棒上下選択スイッチを押すと、表示ランプが赤色に点灯します。

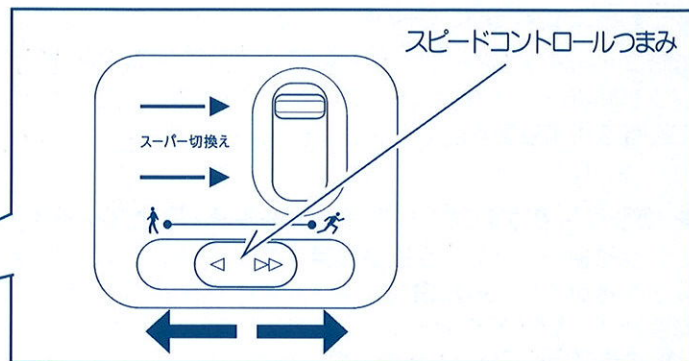
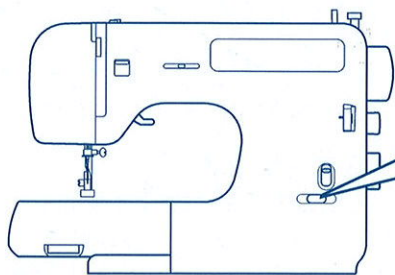
この状態でスタート・ストップスイッチを押して縫い始め、スタート・ストップスイッチを押して停止すると、針は常に最下点で止まります。

設定を解除するには、もう一度このスイッチを押すと、表示ランプが消えて針は最上点停止に戻ります。



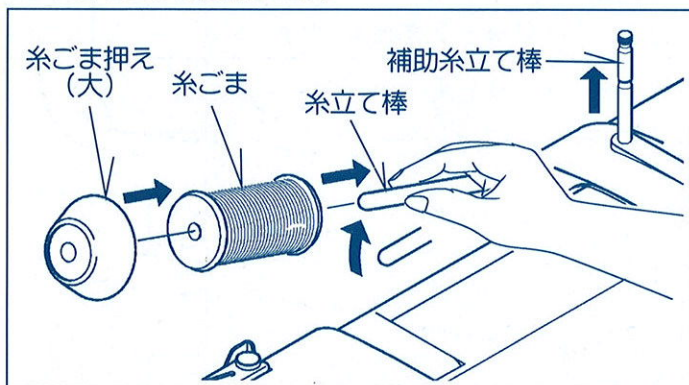
スピードコントロール

このマシンには電子回路が内蔵されており、自由に速度調整が可能で、つまみを右に動かすとスピードが早くなり、左に動かすとスピードが遅くなります。



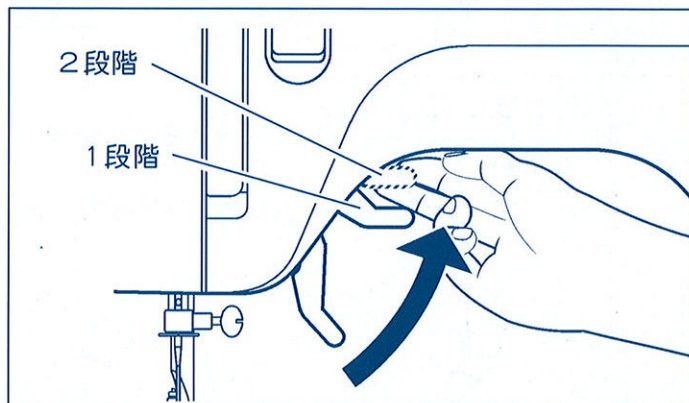
糸ごまのセット

- 1 糸立て棒を手で少し上に向けてください。
- 2 糸立て棒に糸ごまを差し込み、糸ごま押えをかぶせます。
- 3 予備の糸を使用するときには、補助糸立て棒を矢印の方向に引き上げて使用します。



押え上げ

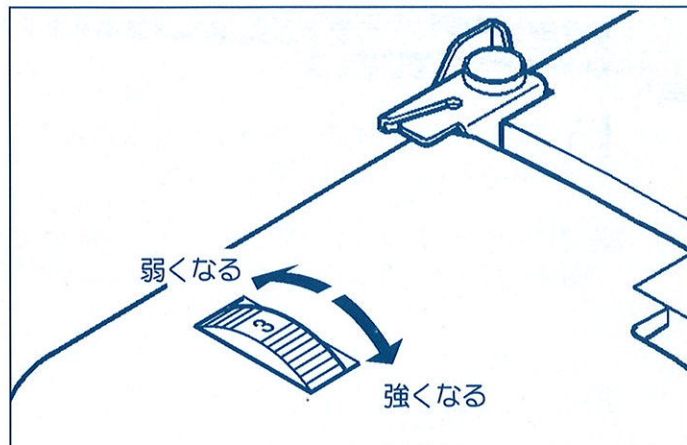
- 1 縫うときは、押え上げを下げておきます。
- 2 押え上げは2段階です。2段階目にする時は、押え上げを手で支えながら、さらに持ち上げます。



押え圧力の調節

押え圧力調節ダイヤル

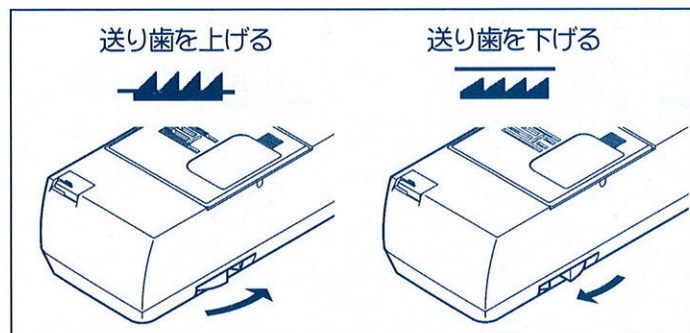
- 1 ダイヤルの調節は、押え上げを上げてから行なってください。
- 2 押え圧力調節ダイヤルの目盛りの数字が大きくなる程、押え圧力は強くなります。
押え圧力の強さは布の厚さや枚数によって異なります。
 - * 通常は「3」の位置が適当です。
 - * 薄物の布地の場合
ダイヤルを「2」にセットしてください。
 - * 伸縮性のある布地の場合
ダイヤルを「2」にセットしてください。
 - * 厚物の布地の場合、または数枚重ねる場合
ダイヤルを「4」にセットしてください。



送り歯調節レバー

このレバーで送り歯を下げると、手で自由に布を送れますので、つくろい縫い、自由刺しゅうに便利です。

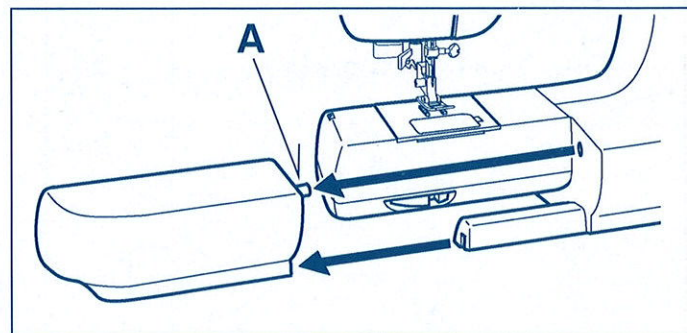
- ⑧ レバーを右に押ししてプーリーを回すと送り歯が上がってきます。



フリーアーム(筒縫いのしかた)

補助テーブルを左に引っ張って外すとフリーアーム型になります。

補助テーブルをもとに戻すときは、テーブルをミシンに沿ってすべらせながら、案内ピン(A)を所定の位置に差し込みます。

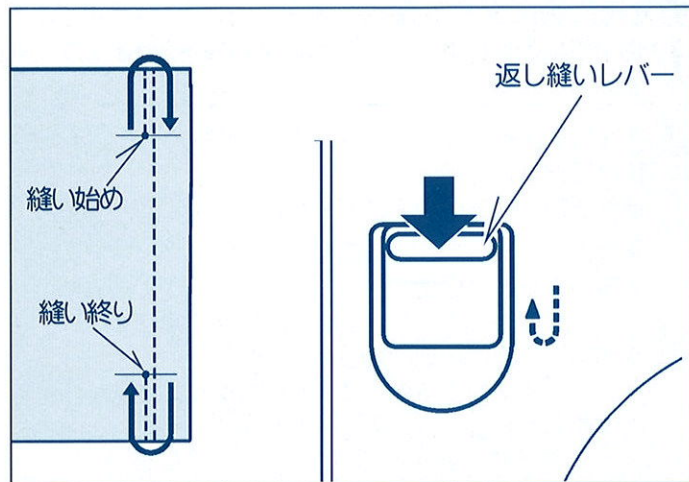


返し縫いレバー

縫い始めと縫い終りに3～5針返し縫いをしておきますと、縫い目がほころびず、丈夫になります。

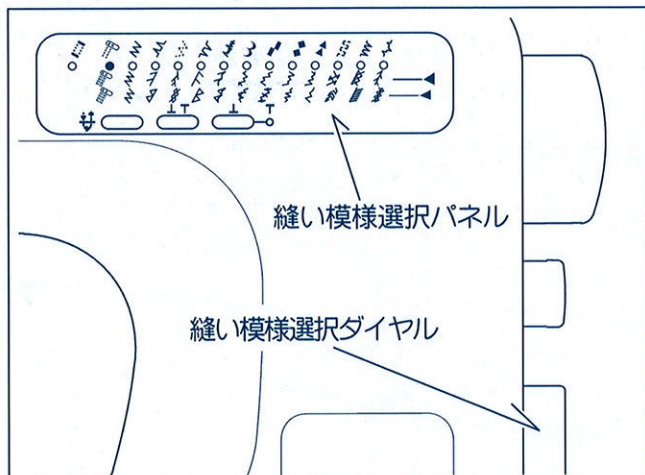
レバーを押し下げている間、最低速で返し縫いをします。
レバーをはなすとミシンは止まります。

④ 電源スイッチが「ON」のとき、このレバーを押すとミシンが動きますので、返し縫い以外はさわらないでください。



縫い模様選択パネル

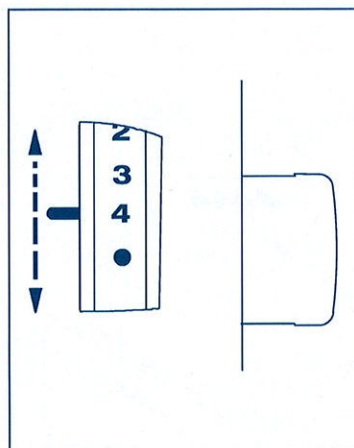
模様選択は○窓に表示されるので縫い模様選択ダイヤルを回すだけで希望の模様が選択できます。



縫い目長さ・スーパー切換えダイヤル

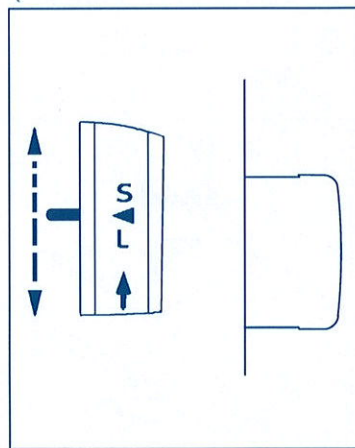
縫い目長さ

縫い目は数字が大きくなれば長くなります。



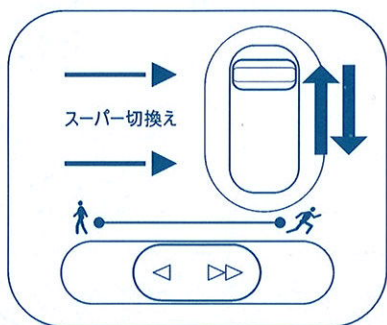
スーパー切換え

スーパー模様を縫うときは◀印に合わせます。



スーパー縫い模様切換えレバー

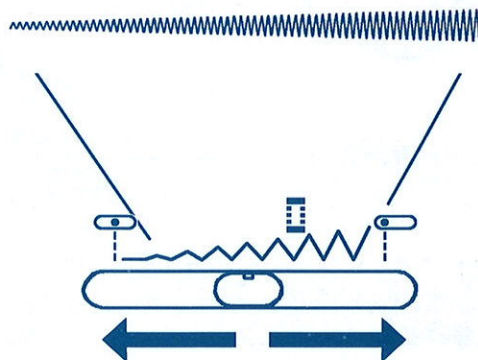
縫い模様選択パネル上の橙色と緑色の2群のスーパー縫い模様の選択に使用します。



ジグザグ・基線切換えレバー

ジグザグの振り巾が調整できます。

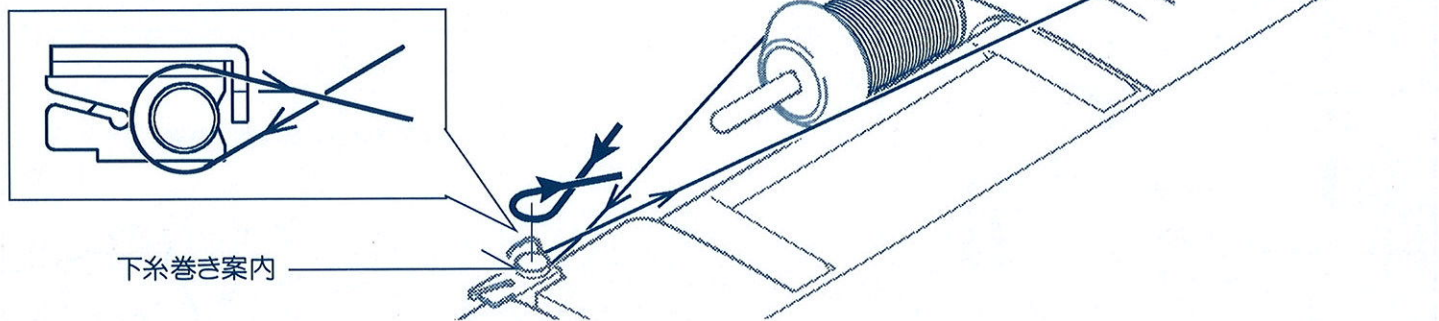
直線縫いのときは、左基線、中基線の2種が選択でき、端縫い、カーブ縫い、細かい部分など布送りしにくいところに大変便利です。



下糸の巻き方

1 糸立て棒に糸ごまを入れ、糸ごま押えをかぶせます。

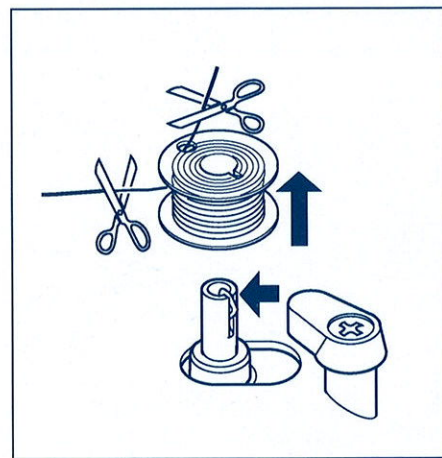
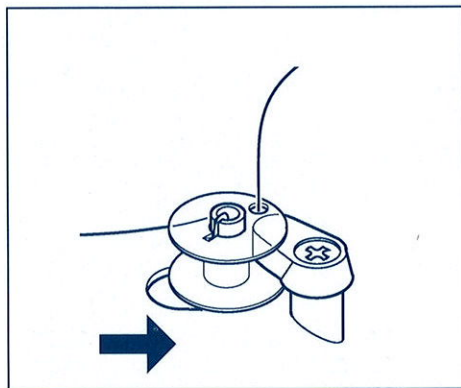
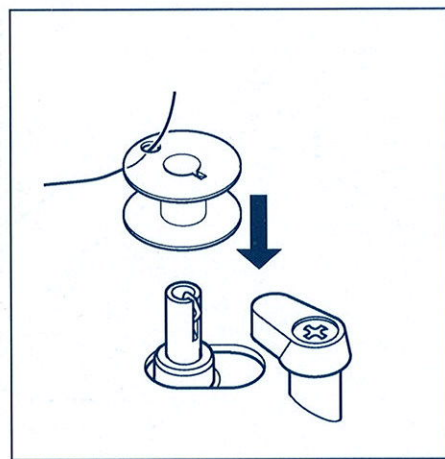
2 下糸巻き案内を經由して糸ごまから糸を引きます。



3 ボビンの穴に糸を通し、ボビンを下糸巻き軸にはめこみます。

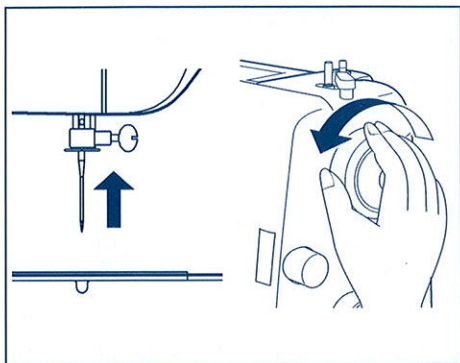
4 糸の端を持ち、ボビンを右に押します。スタート・ストップスイッチを押して糸を巻きます。(糸を巻いている間は針は動きません。)
ボビンが数回転したら、糸を離してください。

5 下糸が一杯になって、ボビンの回転が止まったらミシンを止めます。下糸巻き軸を左にもどし、ボビンを外し、糸の端を切ってください。

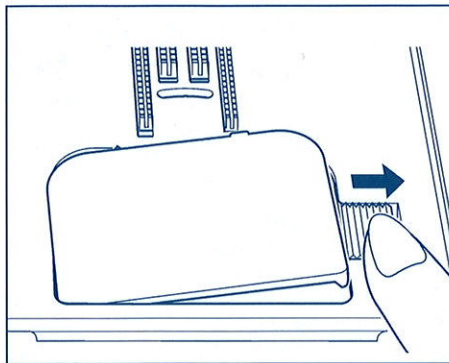


ボビンのセット

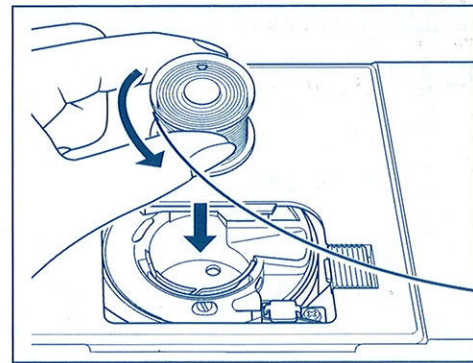
1 プーリーを手前に回して、針を最上点に上げます。



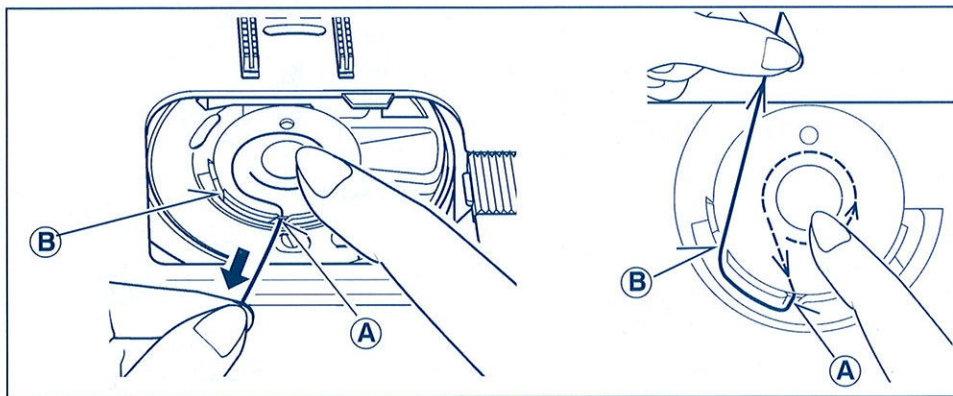
2 かまカバーをはずします。



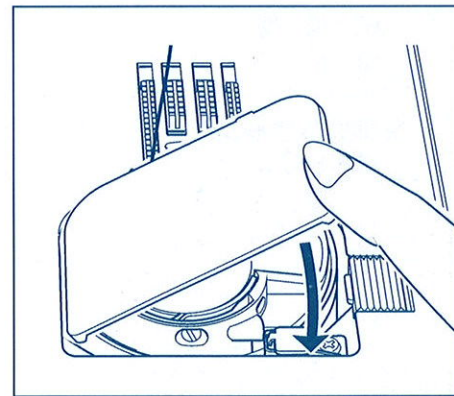
3 糸の端を矢印の方向に出してボビンを入れます。



4 ボビンを指で押えながら、糸を手前のみぞ ① から ② にかけるようにして向こう側に出します。



5 糸を10cmほど引き出し、かまカバーを取り付けます。



針と糸の使い方

- ※ HA×1家庭用ミシン針を使用してください。
- ※ 布地に適した針と糸を使用してください。
- ※ 上糸と下糸は通常同じ種類の糸を使います。
- ※ 曲がった針や先の丸くすりへった針は使用しないでください。
- ※ 縫いにくい布地の縫い方は23ページを参照ください。

布 地	針	糸
薄地デシン 薄 絹 地	9番 (細 い)	120番 100番
薄 物 布 地	11番 (やや細い)	100番 80番
キャラコ 木 綿 地 サージ 伸 縮 布 地	14番 (普 通)	60番 50番
毛 織 物 厚 地 類	16番 (太 い)	40番 30番

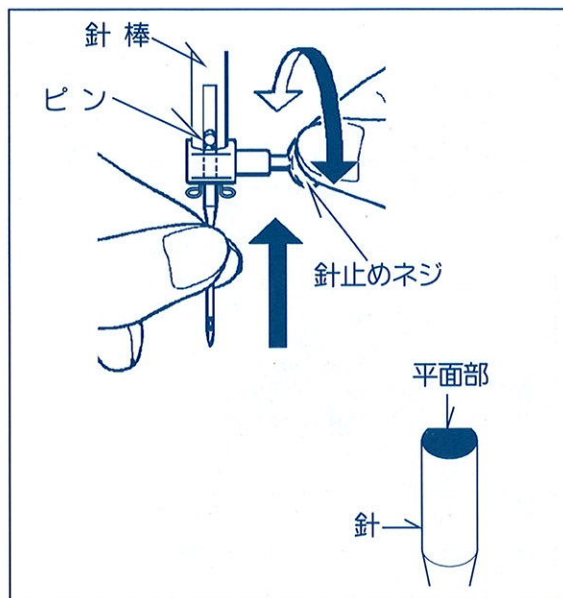
※ 伸縮布地等、目とびしやすい布地にはニット針の使用をおすすめします。

針のとりかえ方



必ず電源スイッチを切ってください。

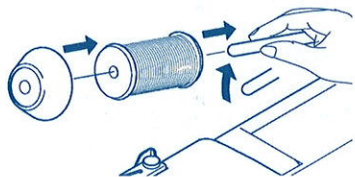
- 1 プーリーを手前に回し、針棒を最上点にあげます。
- 2 針止めネジを手またはネジ回しでゆるめ、針ははずします。
- 3 新しい針の柄の平らな面を向こう側に向けて持ち、針が針棒のピンに当たるまで差しこみます。
- 4 手またはネジ回しで針止めネジをかたくしめます。



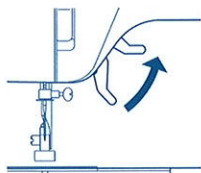
上糸のかけ方

◆ まず上糸をかける前に行なってください。

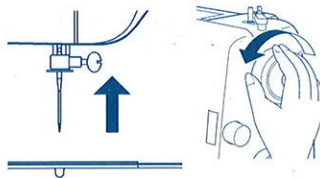
A. 糸ごまと糸ごま押えをつけてください。



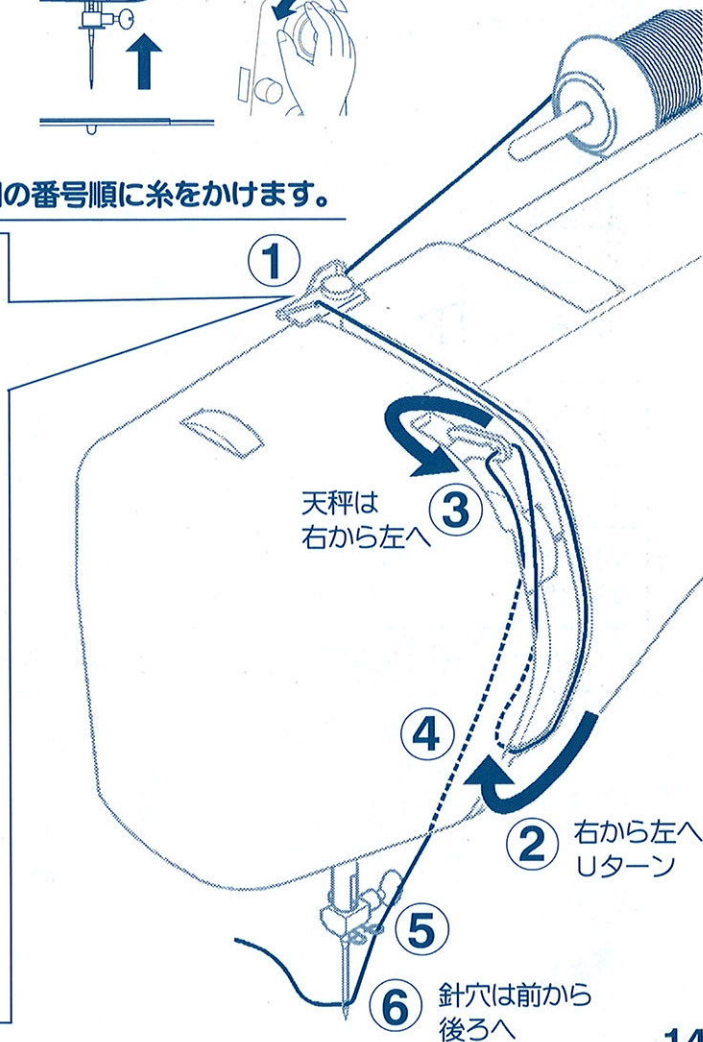
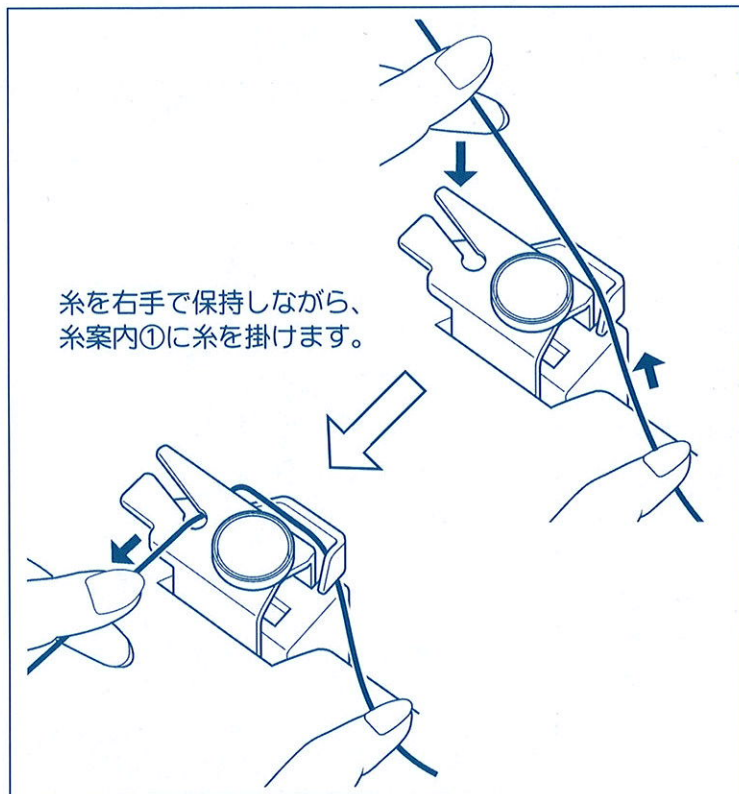
B. 必ず押え上げを上げます。
(押え上げを上げないと、糸調子がとれません。)



C. プーリーを手前に回して、天秤を最上点にあげます。



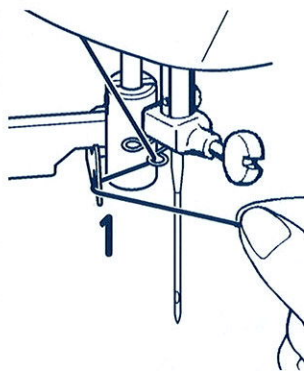
◆ 図の番号順に糸をかけます。



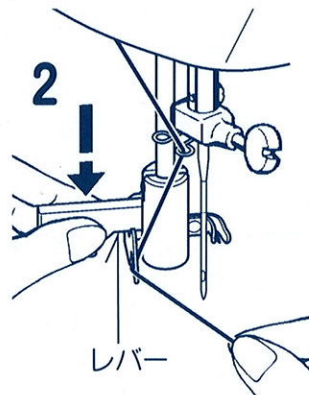
自動糸通し器の使い方

- 押え上げレバーを下げます。
- プーリーを手前に回し、針を最上点付近にしてください。

1. 上糸をガイドに
図のようにかけ
ます。

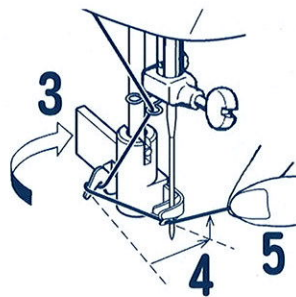


2. 糸を保持したまま、
レバーを限定まで下
げます。



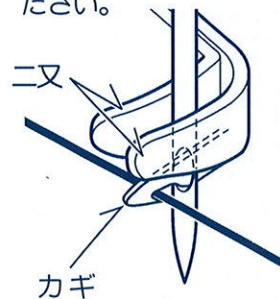
3. 図のように糸通しカギ
が針穴に入る方向に回
転させてください。

③ 針最上点でない
と、レバーは回
転しません。

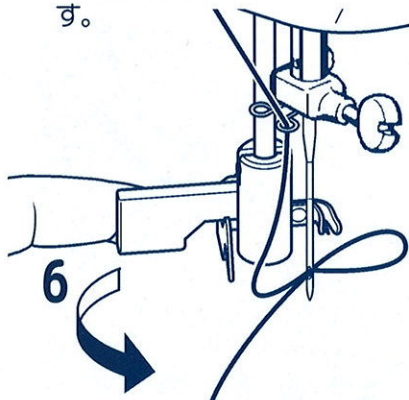


4. 糸を二又の間に入れ、

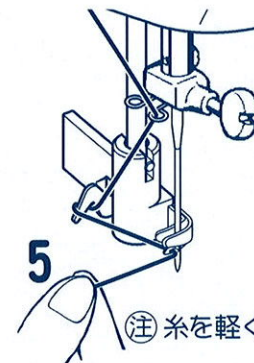
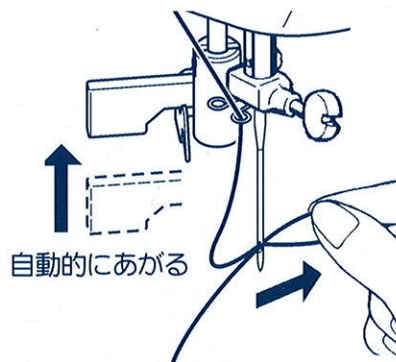
5. 糸通しカギにひっか
けます。糸を軽くつかみ、
正面手前で保持して
ください。



6. レバーを後方より押すと、糸が
針穴後方に輪になって通
ります。



7. 輪になった糸を向う側に引
き出してください。



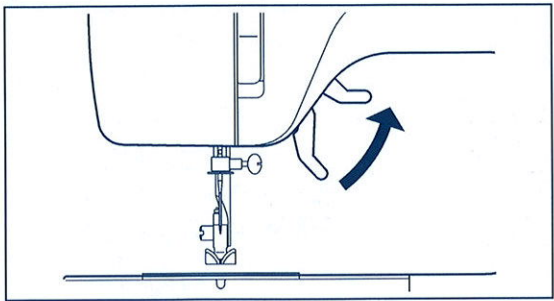
- 細い針に太い糸を使うと糸通しが
できません。

⚠
注意

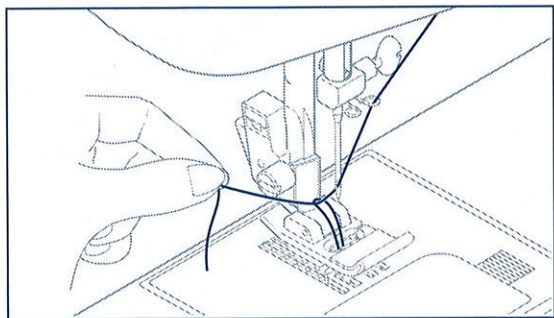
ミシンが動いているときに糸通し
レバーを下げると、故障の原因に
なりますのでご注意ください。

下糸の引き上げ方

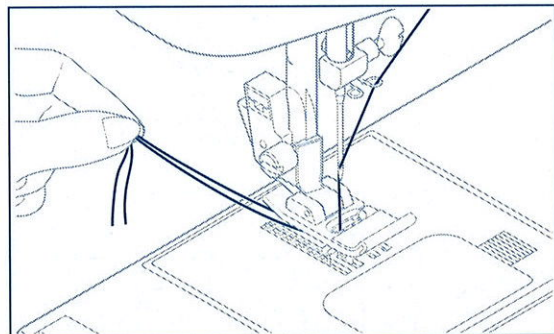
1 押え上げを上げてください。



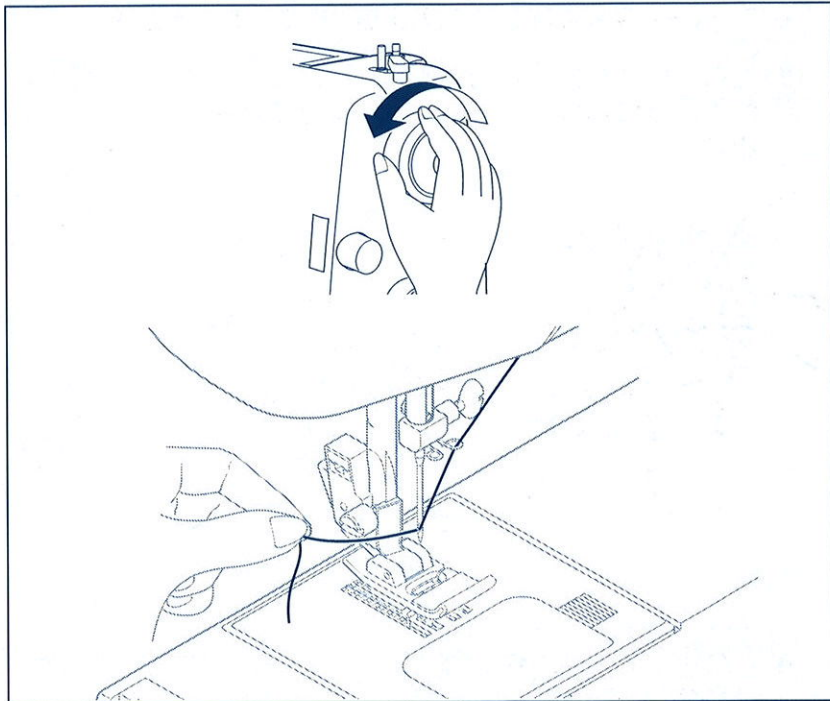
3 上糸を軽く引き上げると、下糸が引き出されます。



4 上糸と下糸をそろえて押えの下に通し、10cm ほど出しへ引き出しておきます。



2 左手で上糸を軽く持ち、プーリーを手前に一回転させ、再び針が上の位置になったところで止めます。



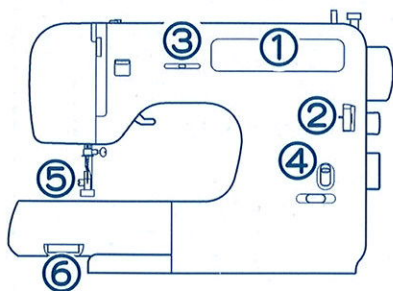
= チェックポイント =

図の手順で下糸が引き上げられない場合は、次の点をチェックしてください。

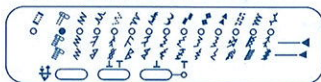
1. 針に糸が通っていますか？
2. 糸が針の回りにからまっていませんか？
3. ホビンケースから糸が10cmほど出ていますか？
4. ホビンケースから出た糸がもつれていませんか？
5. ホビンケースに糸が正しく通っていますか？

2. さあ縫ってみましょう ……

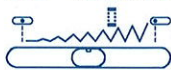
ミシンのセットのしかた



1. 縫い模様選択パネル



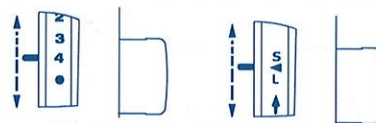
3. ジグザグ・基線切換えレバー



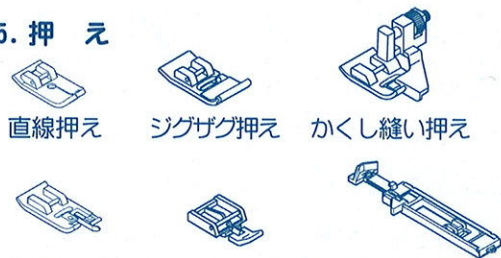
4. スーパー縫い模様切換えレバー



2. 縫い目長さ・スーパー切換えダイヤル



5. 押え



直線押え

ジグザグ押え

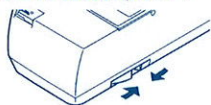
かくし縫い押え

端縫い押え
















































ファスナー押え

ボタンホール押え

6. 送り歯調節レバー




縫い模様	1. 縫い模様選択パネル	2. 縫い目長さ・スーパー切換えダイヤル	3. ジグザグ・基線切換えレバー	4. スーパー縫い模様切換えレバー	5. 押え	6. 送り歯調節レバー
ボタンホール					ボタンホール押え	
直線縫い	(中基線)	1 - 4			直線又はジグザグ押え	
	(左基線)				ジグザグ押え	
ジグザグ縫い		0.5 - 4	最小 - 最大		かくし縫い押え	
かくし縫い		1 - 4			ジグザグ押え	
点線ジグザグ縫い					かくし縫い押え	
4点シエル縫い					ジグザグ押え	
伸縮かくし縫い					かくし縫い押え	
飾り縫い		0.5	中間 - 最大		ジグザグ押え	
					ジグザグ押え	
つき合わせ縫い		1 - 4			ジグザグ押え	
シエル縫い					ジグザグ押え	
ファゴティング縫い				ジグザグ押え		

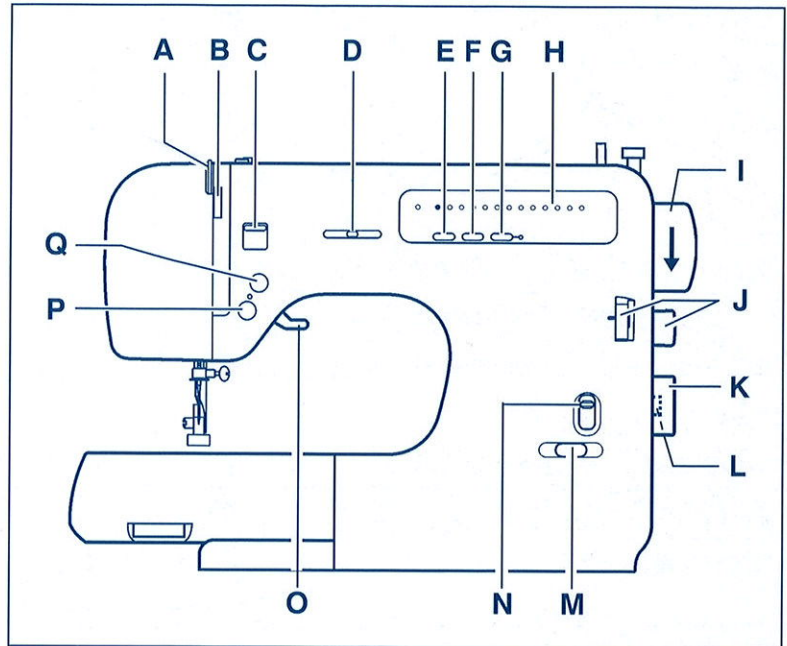
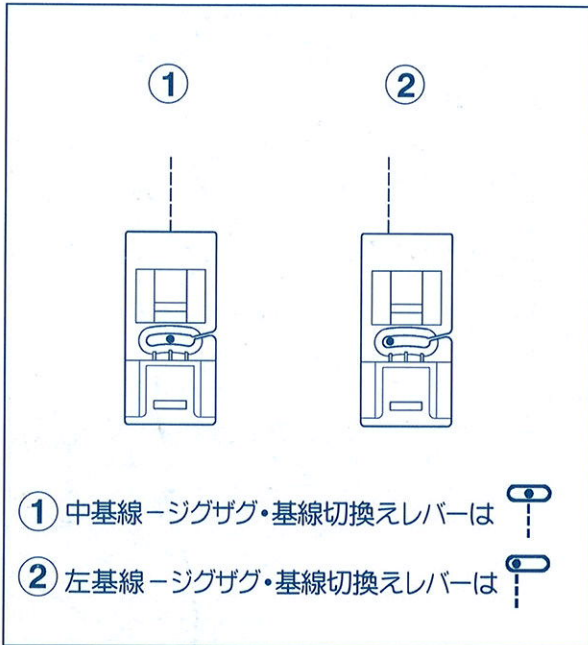
縫い模様	1. 縫い模様 選択パネル	2. 縫い目長さ・ スーパー切換え ダイヤル	3. ジグザグ・ 基線切換え レバー	4. スーパー 縫い模様 切換えレバー	5. 押え	6. 送り歯 調節 レバー									
直線伸縮縫い  (中基線)		▲		/	直線又はジグザグ押え	▲									
					(左基線)		ジグザグ押え								
ジグザグ伸縮縫い 		↓	最小-最大	/	ジグザグ押え	↓									
オーバーロック縫い(右) 			中間-最大		下		ジグザグ又は端縫い押え								
スモッキング縫い 							ジグザグ押え								
オーバーロック縫い(左) 							ジグザグ又は端縫い押え								
エラスチックオーバーロック縫い 							ジグザグ押え								
スーパー 飾り縫い 							↓	中間-最大	下	ジグザグ押え	↓				
													ジグザグ押え		
フィッシュボーン縫い 										ジグザグ押え					
パインリーフ縫い 										ジグザグ押え					
アローヘッド縫い 										ジグザグ押え					
オーバーエッジ縫い(右) 										上		ジグザグ押え			
フェザー縫い 										上		ジグザグ又は端縫い押え			
オーバーエッジ縫い(左) 										上		ジグザグ押え			
ウエーブ縫い 										上		ジグザグ又は端縫い押え			
スーパー 飾り縫い 										↓		中間-最大	上	ジグザグ押え	↓
															
ウィッシュボーン縫い 		上		ジグザグ又は端縫い押え											
二重ロック縫い 		上	ジグザグ押え												
ヘリボン縫い 		上	ジグザグ押え												
ファスナーつけ 		1-4		ファスナー押え											
仮縫い  (中基線)		/		/	直線又はジグザグ押え	▲									
					(左基線)		ジグザグ押え								
(しつけ縫い)															

直線縫い



直線縫いはミシン縫いの基本ですので、試し縫いをして正しい使い方をよく覚えましょう。

- 1 ミシンをセットしましょう。
 縫い模様「」 縫い目長さ「1~4」
 上糸調節ダイヤル「AUTO」
 プーリーを手前に回して、天秤をいちばん上まで上げます。

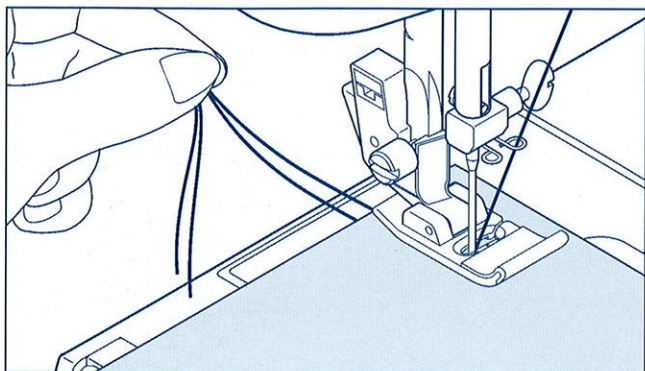


注意

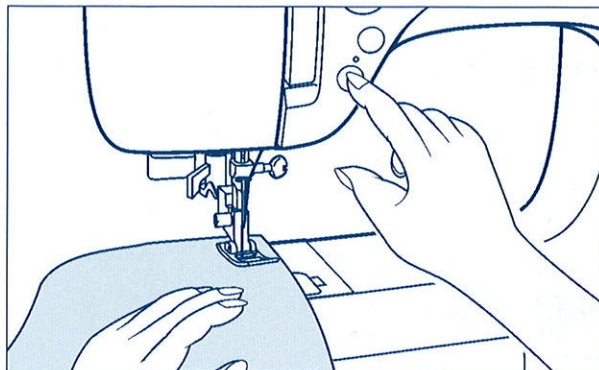
直線専用押えを使用するときは、中基線にセットします。
 この押えを使用中に縫い模様選択ダイヤルを回すと、針が押えに当たって危険です。
 直線縫い以外の模様を選択する時は、ジグザグ押えに取り換えた後、ダイヤルを回してください。

- | | |
|--------------------------|----------------------|
| A. 天秤 | I. プーリー |
| B. 上糸調節ダイヤル | J. 縫い目長さ・スーパー切換えダイヤル |
| C. 返し縫いレバー | K. 縫い模様選択ダイヤル |
| D. ジグザグ・基線切換えレバー | L. 電源スイッチ |
| E. ベースティングスイッチ
(一針縫い) | M. スピードコントロール |
| F. 針上・下停止スイッチ | N. スーパー縫い模様切換えレバー |
| G. 針棒上下選択スイッチ | O. 押え上げ |
| H. 縫い模様選択パネル | P. スタート・ストップスイッチ |
| | Q. ゆっくりすすむスイッチ |

- 2 上糸と下糸をそろえて押えの下から向こう側へ10cmほど引き出します。
- 3 布を押えの下に入れ、押えを下げます。
- 4 プーリーを手前に回して、針を布に突き刺します。

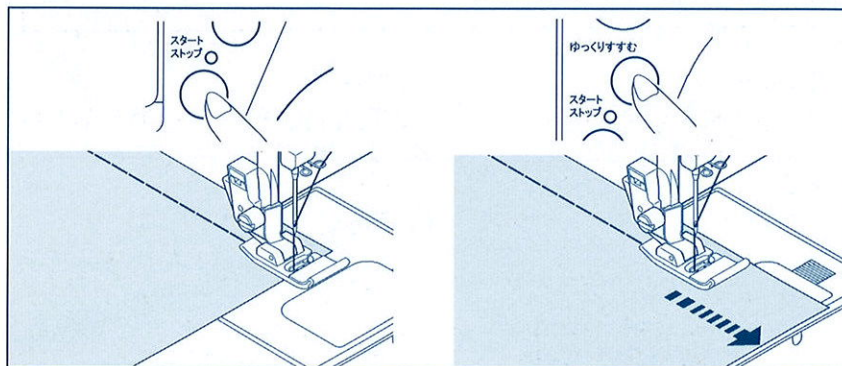


- 5 スタート・ストップスイッチを押して縫い始めます。
「はやい」スピードをお望みの場合は、スピードコントロールのつまみを右に動かしてください。
縫っている間は、ミシンの布送りに合わせて、軽く導いてください。

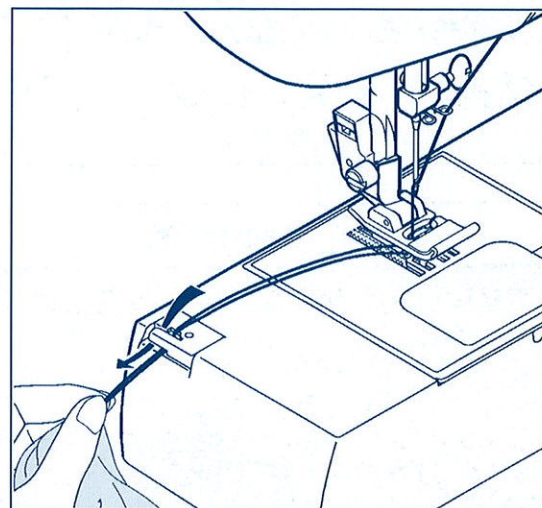


- 6 ミシンの止めかた
スタート・ストップスイッチ使用時
布はしまで来たら、スタート・ストップスイッチをもう一度押してミシンを止めます。

ゆっくりすすむスイッチ使用時
布はしに近づいたら、ゆっくりすすむスイッチを押して、スピードを落として縫い、縫い終わりでスイッチをはなすと、ミシンは止まります。

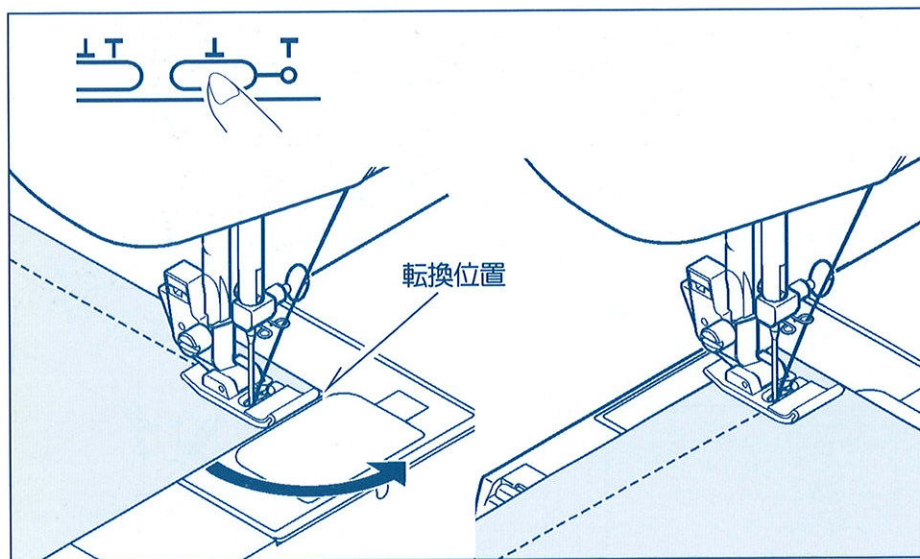


- 7 針と押えを上げ、布地をうしろへ引き出し、糸切りで糸を切ります。



縫い方向の変更方 (布端から16mmで縫う場合)

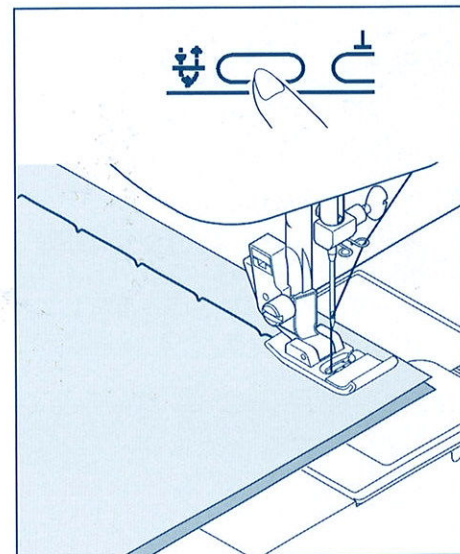
- 1 縫う前に針棒上下選択スイッチを押して、下(停止)を選択します。
表示ランプが点灯します。
- 2 布の角が針板上の「転換位置」にきたらミシンを止めます。針が布に突き刺さった状態で止まります。
- 3 押え上げを上げ、布地を回し、布の下端を16mmの線に合わせます。
- 4 押えを下げて再び縫い始めます。



仮縫い(しつけ縫い)

- 1 ベースティングスイッチ(一針縫い)を押し、一針縫いをします。
- 2 押え上げを上げ、布地を移動します。
- 3 押え上げをおろし、再びベースティングスイッチ(一針縫い)を押します。

⑧ 仮縫い(しつけ縫い)の前に、送り歯調節レバー操作で送り歯を下げます。(8ページ参照)

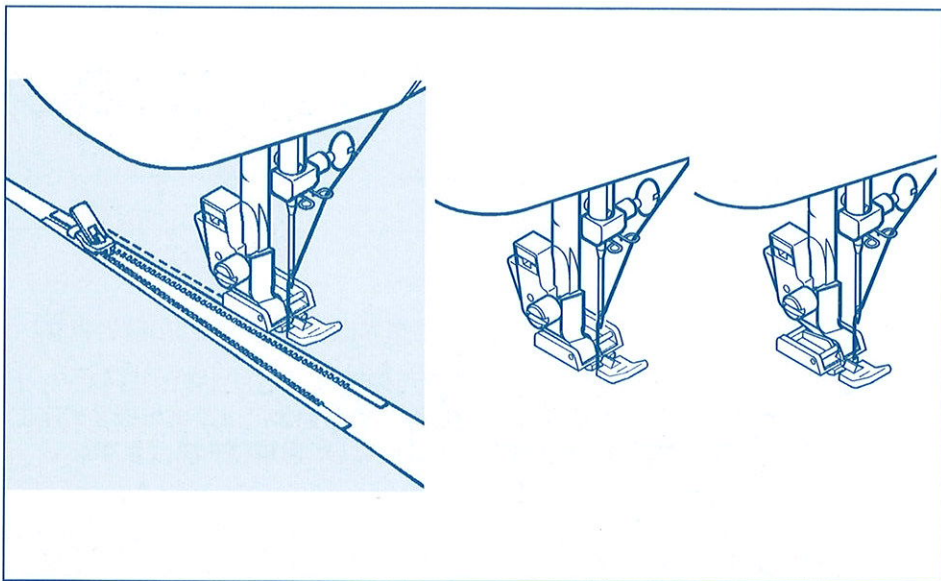


ファスナーつけ

ファスナー押えを使用します。

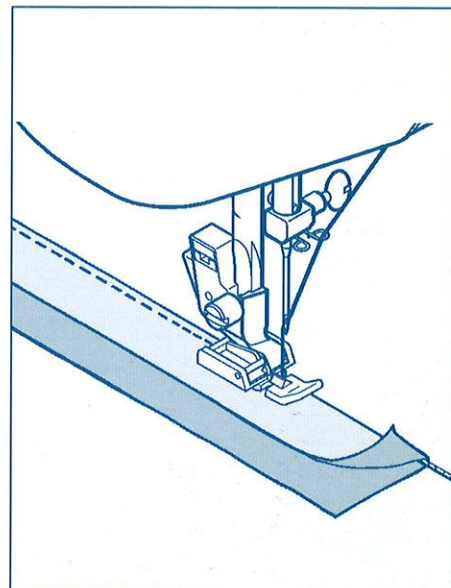
ファスナーの右側を縫うときは、押えホルダーを押えの左側のピンに取付けて縫います。

左側を縫うときは、押えホルダーを押えの右側のピンに取付けて縫います。



パイピング

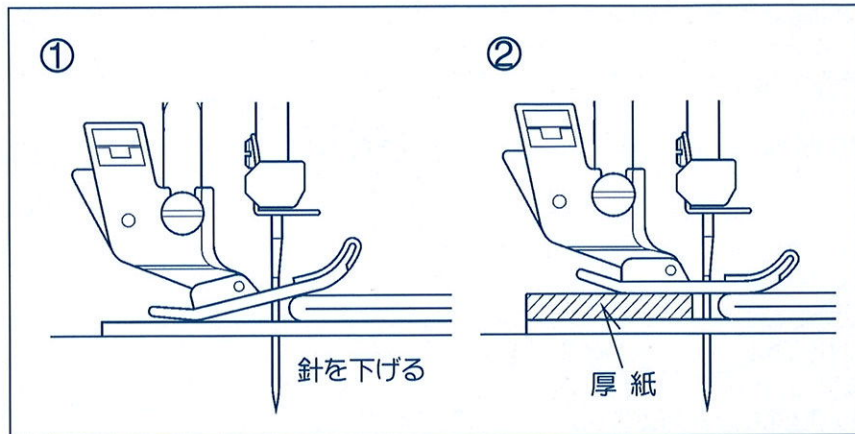
バイアステープを外表に折るか、バイアステープでコードをくるみ、押えホルダーをファスナー押えの右側に取付けて図のように縫います。



縫いにくい布地の縫い方

薄物(レース布、薄物布)

- ※ レース布や特に薄い布地の場合、布の下に紙を敷きます。縫い終わったら、紙を取り除きます。薄物縫いで目飛びしたり、しわがよる場合も紙を敷いてください。
- ※ 薄物の縫い始めは、上糸と下糸を少し引っ張りながら縫います。



厚物(タオル布)

- タオル布を縫う際は、布の種類によって布送りが悪くなる場合があります。布の下に紙を敷き、太い針 # 16 を使用し、ゆっくりとしたスピードで縫います。縫い終わったら、紙を取り除きます。
- ※ 縫い目長さダイヤルを「2」以上にしてください。

段縫い

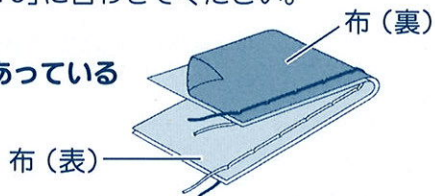
- ※ 布送りがスムーズでない場合、手で布の送りを助けながら縫います。
- ※ 図のように重なった厚地の布を縫う場合は、図①の状態でもシンを止め、針を下げます。図②の様に同じ厚さの布地または厚紙を押えの下に敷いて縫います。布送りがスムーズになり、目飛びも防げます。

上糸調子のとり方

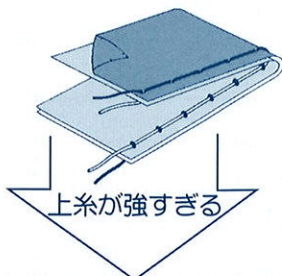
直線縫いの場合、上糸と下糸が布の中間で適当な張力をもつてからみ合うのが、正常な糸調子です。

通常の場合は、「AUTO」に合わせてください。

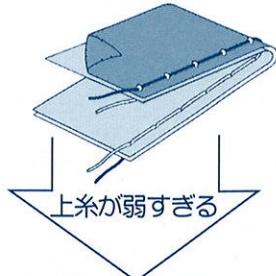
上、下糸がつりあっている



上糸が強くて、布の表に下糸が出るときは、上糸調子ダイヤルを数字の小さい方へ回して上糸調子を弱めます。



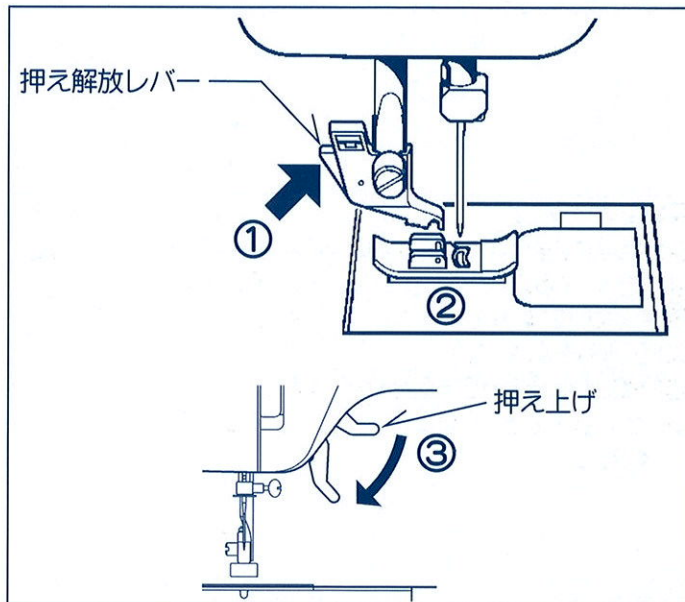
上糸が弱くて、布の裏に上糸が出るときは、上糸調子ダイヤルを数字の大きい方へ回して上糸調子を強めます。



押えのとりかえ方

押えと針を上げます。

- 1 押え解放レバーを矢印の方向へ押し、押えがはずれます。
- 2 針板と押えの針穴が合うように新しい押えを針板の上におきます。
- 3 押え上げを下げると押えがセットされます。入りにくい時は、押え解放レバーを押すと入ります。



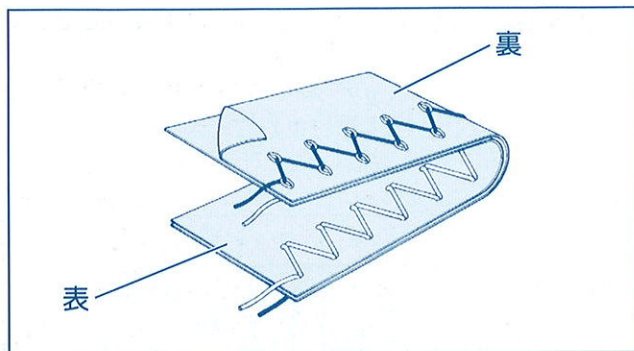
注意

押えの取りかえは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。

ジグザグ縫い ↷

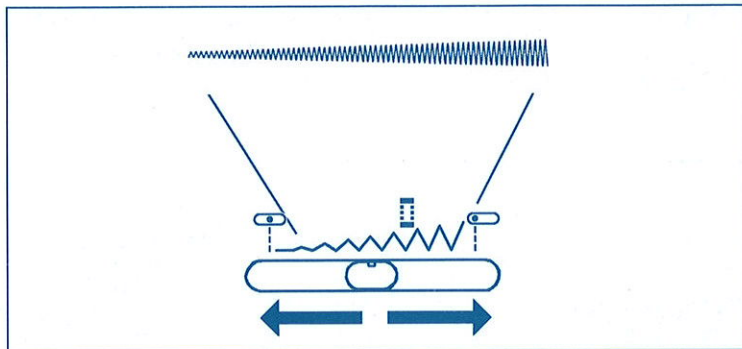
ジグザグ縫いの糸調子

布の裏側に上糸が少し出るのが正しい糸調子です。



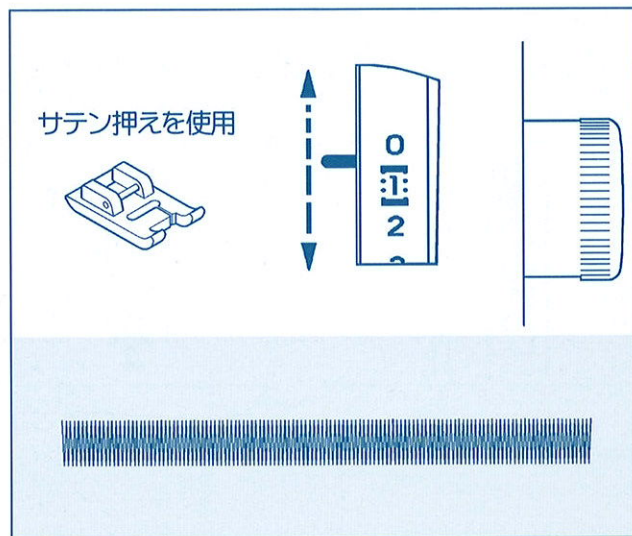
ジグザグ振り巾の選択

ジグザグ・基線切換えレバーを動かして、お望みのジグザグの振り巾にセットします。



サテンステッチ (密着縫い)

縫い目長さダイヤルを「0.5」ぐらいにセットすると、目のつまったきれいな縫い目ができます。
アップリケ、刺しゅう縫いなどに使います。



かくし縫い (ブラインドステッチ)

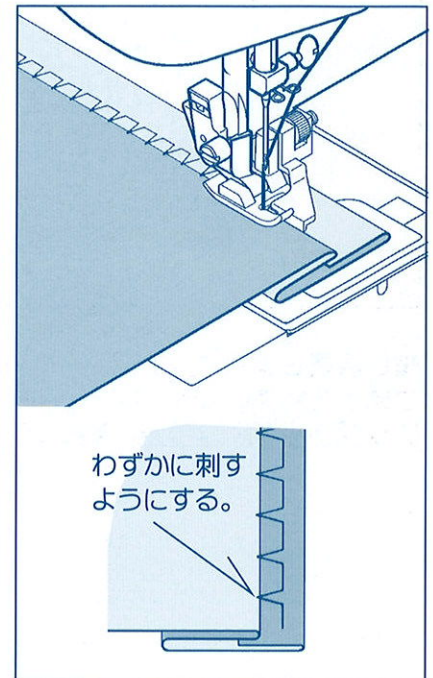
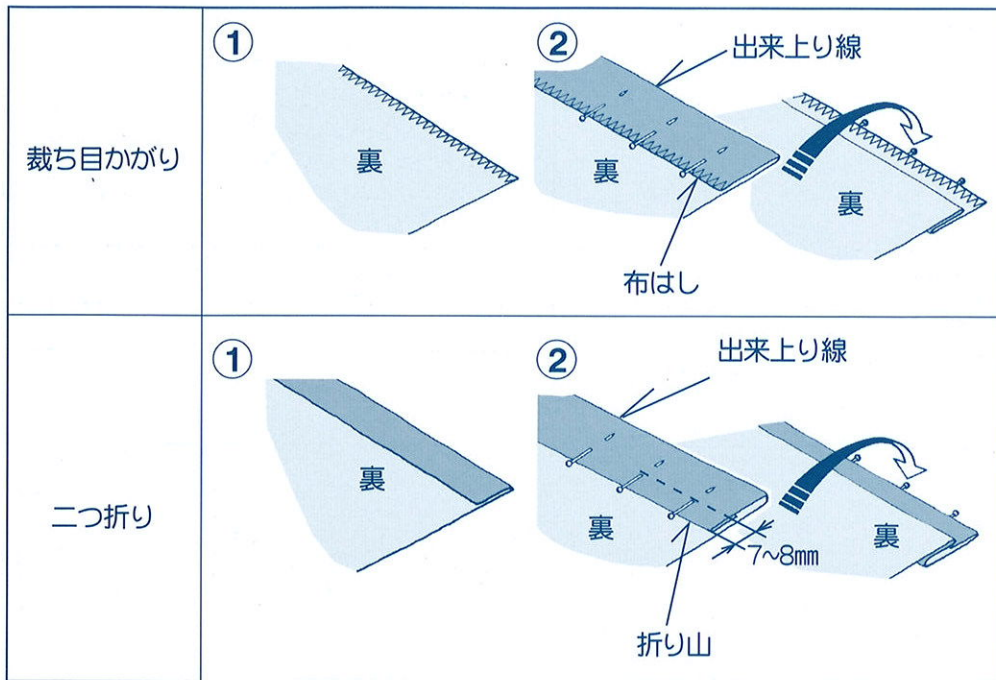


— 普通地に適しています。

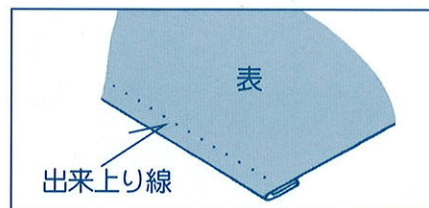


— 伸縮性の布地に適しています。

- 1 布端を裁ち目かがりするか、二つ折りにします。
- 2 出来上り線にそって布を折り、布はしまたは、折り山から約7~8mm入ったところからすそに向かって、図のように待ち針で止めます。待ち針を持って折り返します。
- 3 針が左に落ちるとき、針が折り山をわずかに刺すように縫っていきます。待ち針は押えの手前に来たら順に抜いていきます。



- 4 布を表に開くと出来上りです。

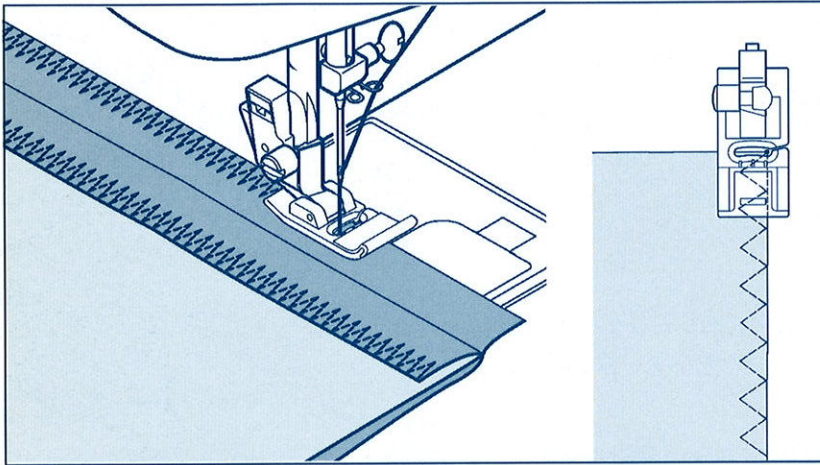


点線ジグザグ縫い



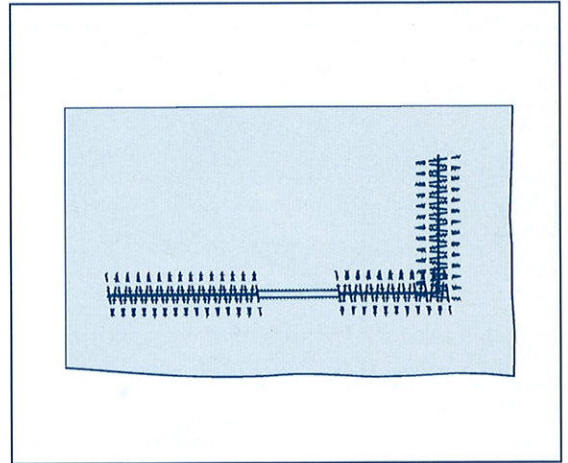
裁ち目かがり

点線ジグザグ縫いは、ジグザグ縫いが一針で縫うところを三針で縫いますので、丈夫に縫え、伸縮性があります。どのような種類の布の裁ち目かがりにも使えます。



つくろい縫い

布の裂け目をつくろうには、裂け目を押えの下に置き、針が裂け目の両側を拾うように縫います。裂け目の角を縫う場合は、両側から角の中心に向って縫っていきます。裂け目の下に布を一枚あててやると丈夫につくろえます。

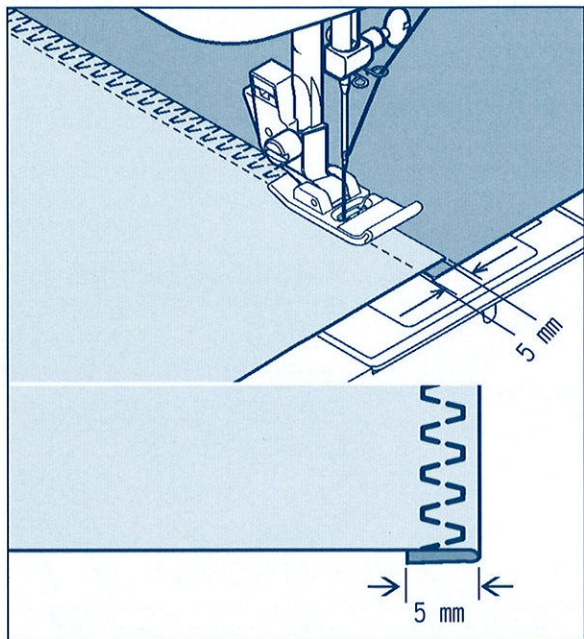


つき合わせ縫い



布と布をつき合わせて縫います。

クッション、テーブルセンターなどを作る時に利用できます。



シェル縫い



シェルステッチは、その名の通り貝殻を一直線に並べたような装飾模様として使えますので、ランジェリーやガウンの仕上げに最適です。針が右側に落ちる時、布地にかからないようにして縫ってください。縫う前に、はぎれを使ってテスト縫いされることをおすすめします。

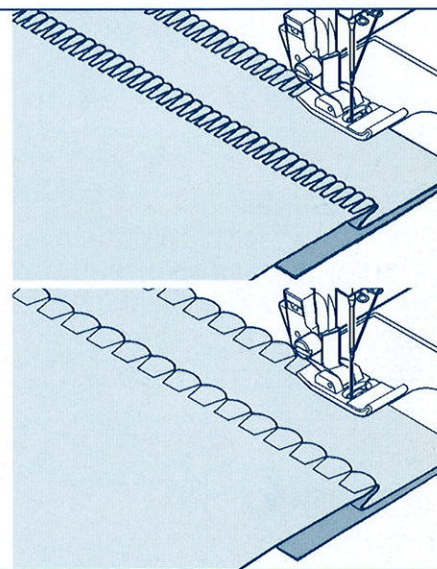
⑧ 上糸の糸調子を通常の場合より少し強めにします。



ランジェリーや薄手の布地に適しています。



4点シェルステッチを使うと、大きな模様になります。

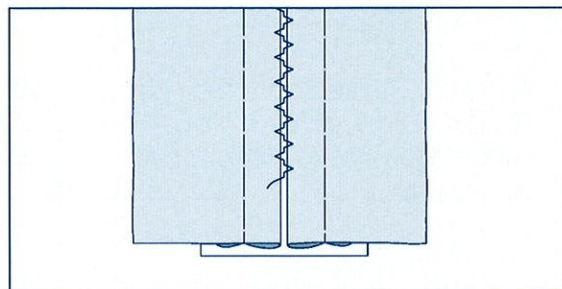


ファゴティング縫い



布端と布端の間をはなしたままつなぎ合わせる方法で、子供服、手芸用品の飾り、室内装飾の小物などに活用します。

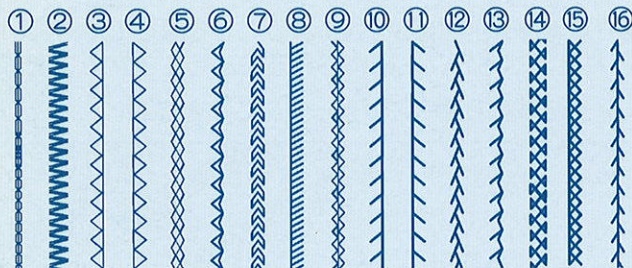
- 1 2枚の布を裏側に折り返し、布地の端を0.3~0.5cmあけて紙の上のせて仮止めします。
- 2 布表から縫います。
- 3 縫い終わったら、仮止めとあて紙を取り除いてアイロンをかけます。



スーパー縫い (ストレッチステッチ)

縫い目長さの調整

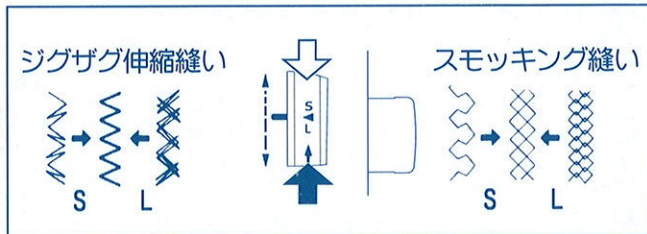
縫い目送りダイヤルの◀印の位置でバランスの取れた美しい伸縮縫いができます。



- ① 直線伸縮縫い
- ② ジグザグ伸縮縫い
- ③ オーバーロック縫い(右)
- ④ オーバーロック縫い(左)
- ⑤ スモッキング縫い
- ⑥ エラスチックオーバーロック縫い
- ⑦ フィッシュボーン縫い
- ⑧ パインリーフ縫い
- ⑨ アローヘッド縫い
- ⑩ オーバーエッジ縫い(右)
- ⑪ オーバーエッジ縫い(左)
- ⑫ フェザー縫い
- ⑬ ウェーブ縫い
- ⑭ ウィッシュボーン縫い
- ⑮ 二重ロック縫い
- ⑯ ヘリボン縫い

模様形状の整え方

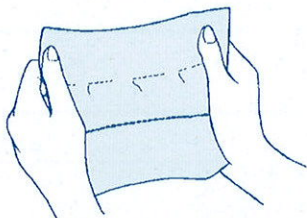
伸縮縫いは、使用される布地によって伸びたり縮んだりすることがありますのでL・Sの縫い目バランス調節位置で調整します。(伸びた場合はS、縮んだ場合はLに合わす。)



伸縮性の生地を縫う場合

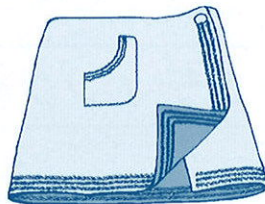
薄い伸縮性のある生地やニット地にストレッチステッチを縫う場合は、ニット専用針を使用されると目とびなどを防ぎ、好結果が得られます。

直線伸縮縫い



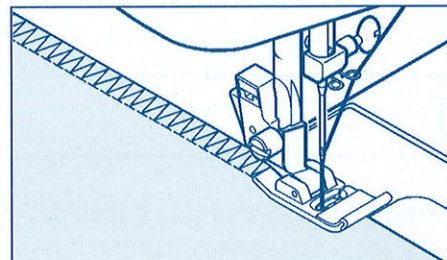
図のように布地をひっぱると、普通の縫いでは糸が切れますが、伸縮縫いは縫い目が伸び縮みして糸が切れません。

ジグザグ伸縮縫い



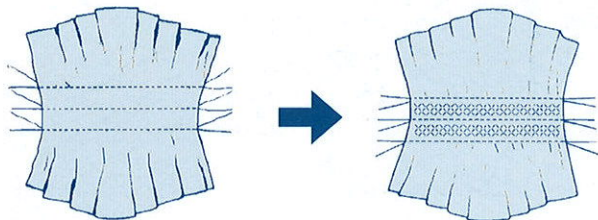
縫い目に伸縮性があるので、ニットや、ジャージ、トリコットなどの伸縮性のある布地に適しています。

オーバーロック縫い



地縫いとかがり縫いを一度にし、又伸縮性があるので、ブラウ生地や綿ジャージ、薄い生地の縫い代の仕上げを始めとし、小物、手芸品などの飾り縫いに最適です。
針は14番以上は使用しないでください。

スモッキング縫い ㊦

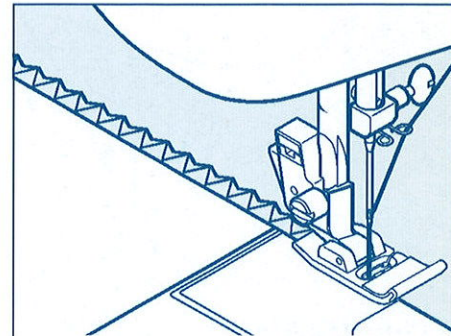


1. 上糸調子を弱くして、1センチ位の
間隔を開けて直線縫いをしてく
ださい。
2. 下糸だけを引っ張ってギャザーを
寄せ、上糸と下糸を結んでギャ
ザーを固定します。

3. 直線縫いの間をスモッキング縫い
します。直線縫いの糸をほどき
ます。

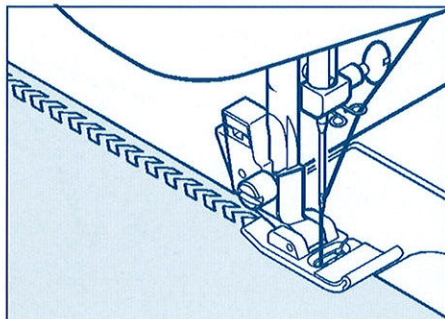
ヨーク、ベビー服、幼児のドレス、
ランジェリー、タック押えに最適
です。

エラスチックオーバーロック縫い ㊦



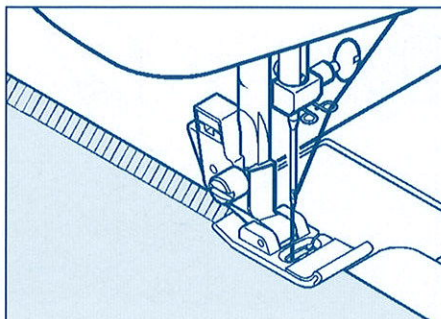
地縫いと裁ち目かがりを一度にし、
地縫い部分がジグザグ縫いになっ
ていますので、伸縮度の大きい布
地に適しています。

フィッシュボーン縫い ㊦



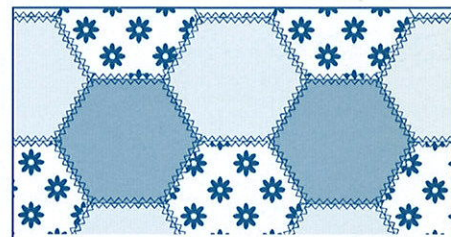
端飾りや刺しゅうに。

パインリーフ縫い ㊦



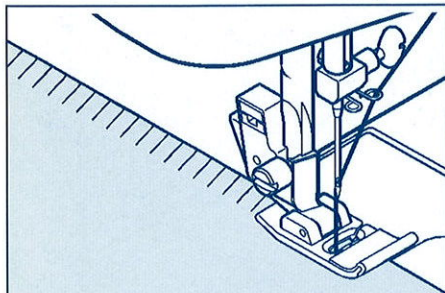
トリコットや柔らかいジャージ
のような伸縮性のある布地に最
適です。
とりわけ伸縮する布地の縁をか
がったりする時に便利です。

アローヘッド縫い ㊦



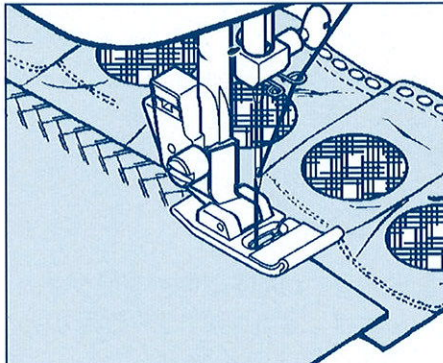
ジャージやニットのような伸縮性
のある布地の、破れたり、すり切れた穴
を補修するのに適しています。
ともぎれを穴の上に対して、きれの
端を押え金の中心に置いてつくろ
います。縫い終わったら布を裏返して、
縫い目の近くから破れた部分を切り
取ります。
飾り縫いとしてもお使いになれます。

オーバーエッジ縫い 



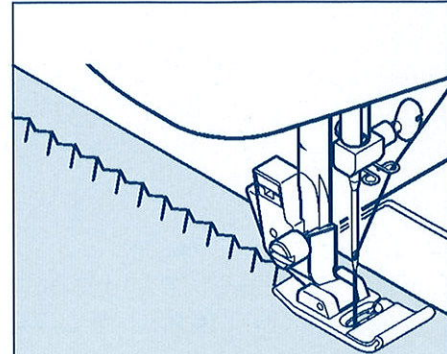
トリコットや柔らかいジャージのような伸縮性のある布地に最適です。

フェザー縫い 



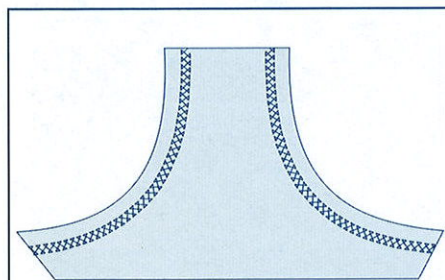
レースの縫い付け、ニットやトリコットのつき合わせはぎ、ファゴティング、飾り縫いに適しています。

ウェーブ縫い 



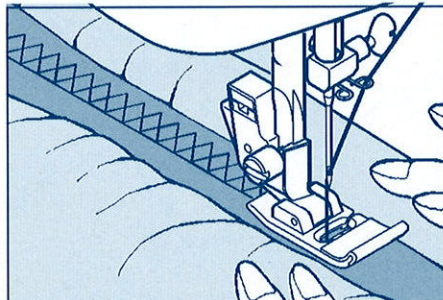
端飾りに適しています。

ウィッシュボーン縫い 



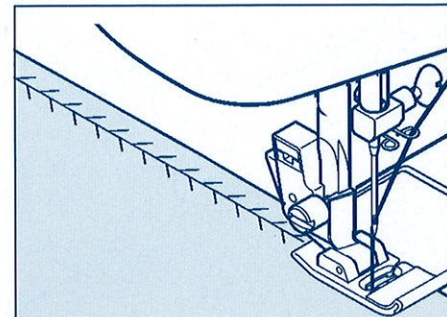
伸縮性のある生地 of 縫いや飾り縫いに適しています。

二重ロック縫い 



布地の裁ち目がほつれるのを防ぎます。ニット・ジャージーなどの伸縮性のある生地最適です。平ゴム・毛糸などを縫い付ける場合もご利用ください。針は14番以上は使用しないでください。

ヘリボン縫い 



布のつき合わせはぎや刺しゅうに。

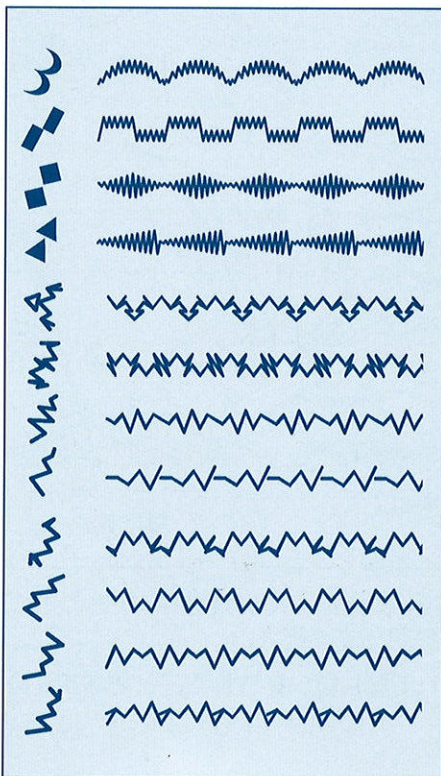
飾り縫い



※ 使用される布地の端切れで試し縫いをされることをおすすめします。

※ 縫い途中に糸がなくなること避けるためにボビンと糸ごまに十分な糸があることを確認してから縫い始めてください。

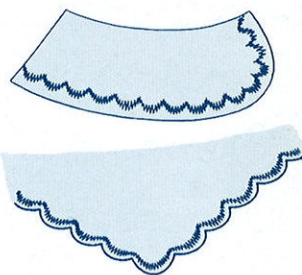
※ 上糸調子をやや弱めにセットしてください。



スカラップ模様

婦人服や子供服のそでやえり等の縁飾りとして、また端の始末などに利用できます。

端の始末をする場合は、布端をこの模様で縫った後、模様に沿って布地を切り取ります。この際縫い目の糸を切らないように注意します。



ドミノ模様

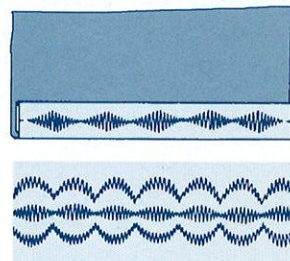
バイアステープを使い縁を折り返します。その上からドミノ模様で仕上げます。



ダイヤモンド模様

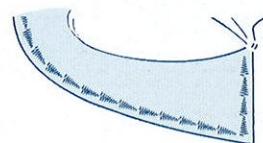
縁を折ってこの模様で縁の始末をします。

スカラップ模様とダイヤモンド模様の組み合わせでさらに美しい模様を創り出します。



アローヘッド模様

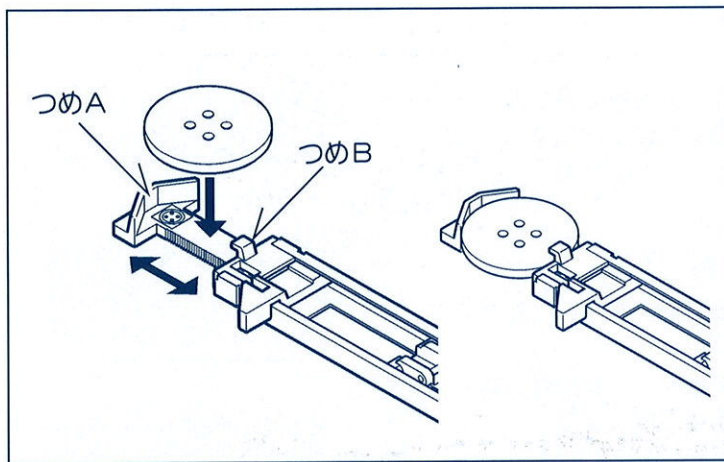
飾り縫いとして使われるほか、ほつれやすい箇所を補強するための装飾的な三角形の止め(三つ止め)として使われます。特にポケットの両端などに装飾的に使われます。



ボタンホール（ボタン穴かがり）

ボタンホール押えの使い方

- 1 押え金をボタンホール押えに交換してください。
- 2 つめAとつめBの間にボタンをはさみます。
- 3 ボタンの大きさに応じたボタンホールができます。

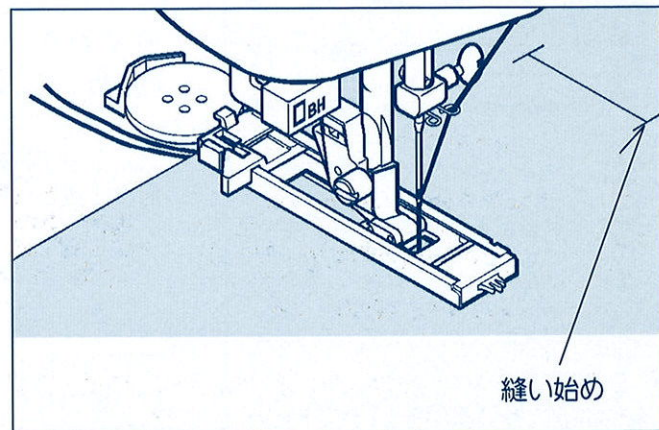


縫い始めのセット



ジグザグ・基線切換えレバー

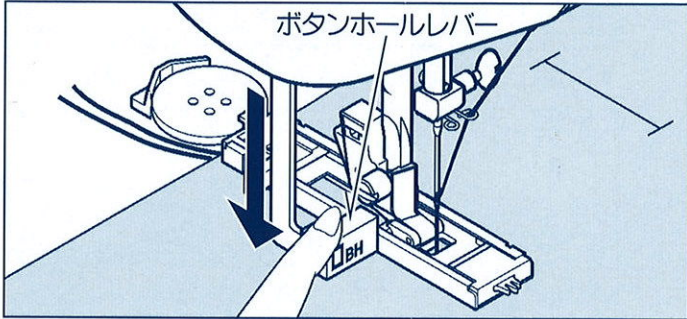
ジグザグ・基線切換えレバーをボタンホール位置にセットします。
ボタンホール押えをセットし、縫い始めの位置に合わせて押えを下げます。



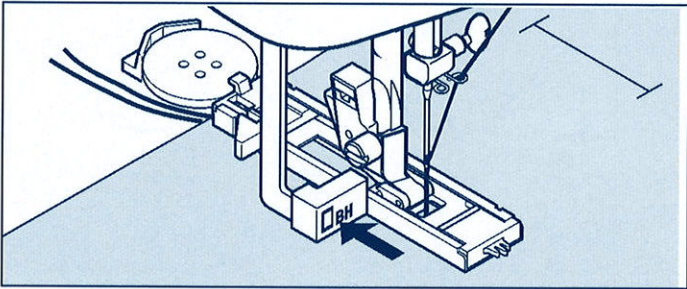
- ※ 伸縮性のある布地で、進みにくい場合は、布地の下に不織布の接着芯を張ってください。
- ※ 使用される布切れで試し縫いをされることをおすすめします。

縫い方

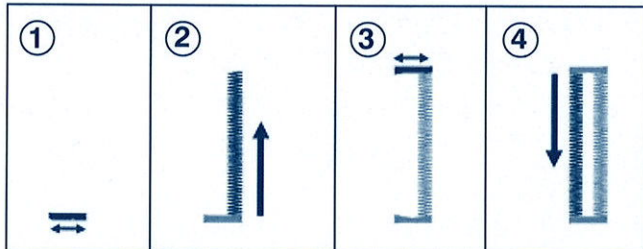
- 1 ボタンホールレバーを押し下げます。



- 2 ボタンホールレバーをカチッと音がするまで向こう側へ押しします。

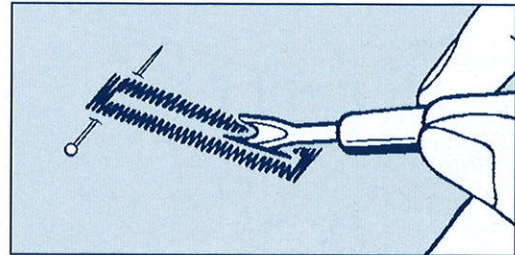


- 3 ミシンをスタートさせます。下記の順番に自動的に縫いあがります。縫い終わったら押えを上げます。



- 4 連続して縫う場合は、ボタンホール押えを次の縫い始めの位置に合わせて、押えを下げ、ステップ2、3をくり返します。

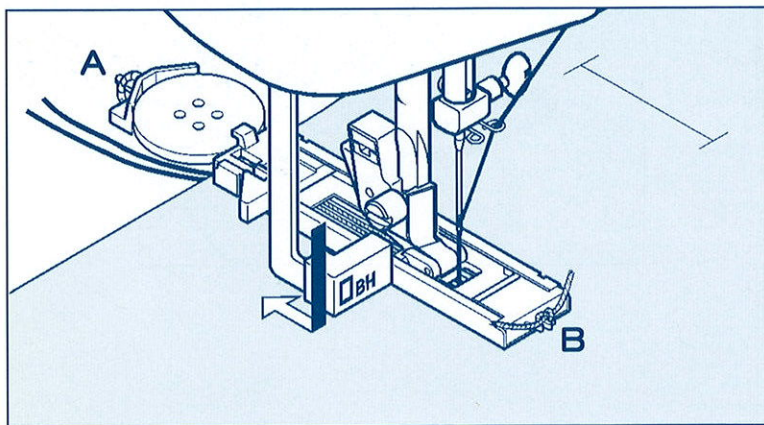
- 5 縫い終わったらリッパーで中央の布地を切り開きます。その際縫い糸を切らないように注意してください。



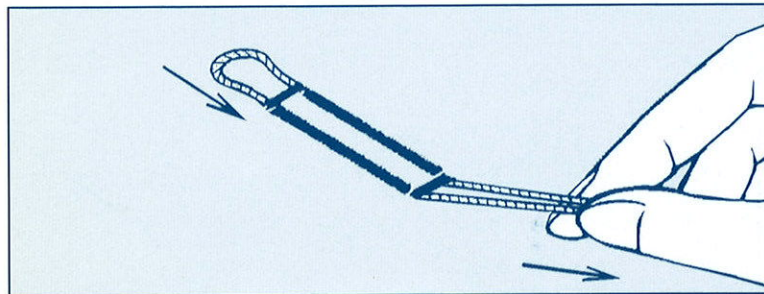
芯入りボタンホール

芯糸を入れて縫うと、ボタン穴の伸びを防ぎ、強いボタン穴ができます。芯糸にはレース糸または穴糸を使います。

- 1 芯糸をボタンホール押えのうしろの突起(A)に引っかけて、押えの下を通して前の突起(B)に結び付けます。
- 2 このまま押えを取りつけて穴かがりすると、芯糸入りのボタンホールができます。

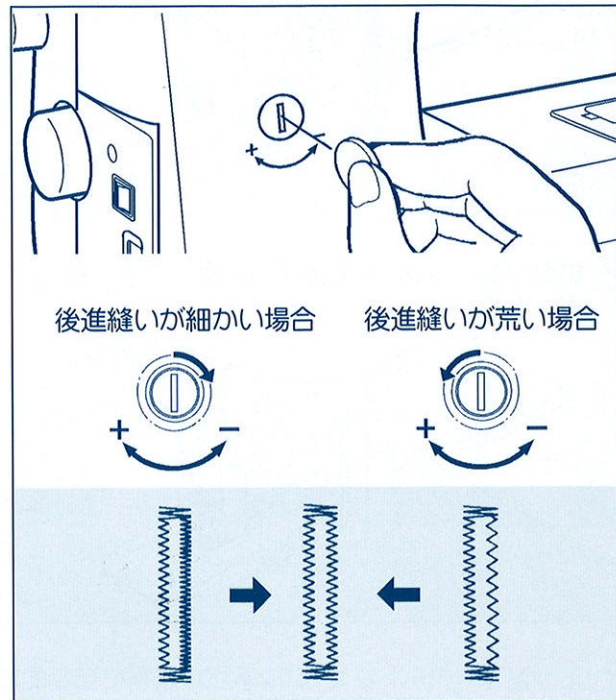


- 3 縫い終わったら芯糸を押えからはずし、糸の端を引いてたるみをなくし、余分の糸を切り取ります。



縫い目のバランス調整

出荷時にはボタンホールの前進、後進縫いのバランス調整を完全に行なっていますが、布質によって縫い目荒さが合わない場合は、微調整ネジで後進縫いの荒さを調整します。

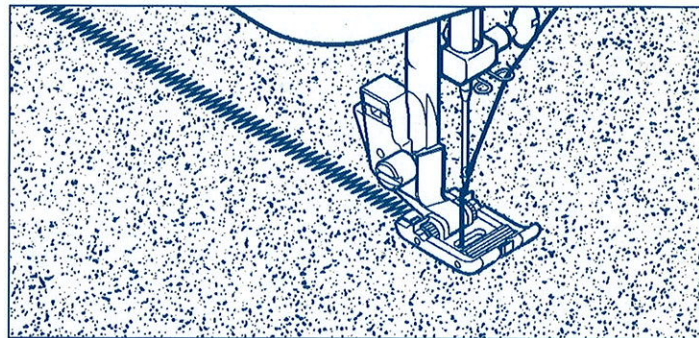


その他のアクセサリーの使い方

ローラー押え



皮、スウェード、ベルベット、タオルなどすべりの悪い材料を縫うのに最適。



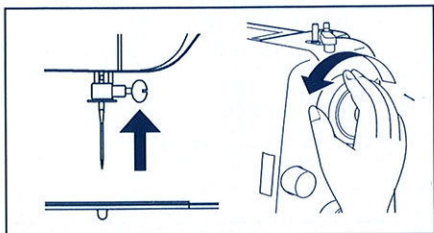
3. ミシンのお手入れ …… ミシンを長もちさせるためには、日常の手入れが大切です。

送り歯とかまの掃除

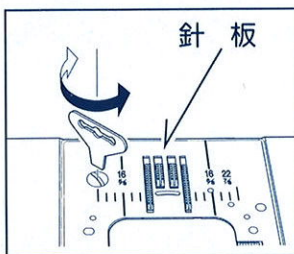
ボビンケースやかまに糸がからんだ場合又は、ボビンケースの位置がずれた場合も、次の順序で行ってください。

⚠ 注意 安全のために必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。ケガの原因になります。

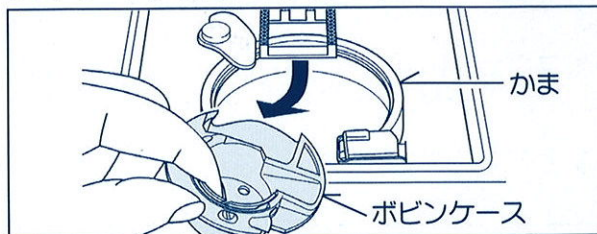
1 プーリーを手前に回して、針を最上点に上げます。



2 針板をはずします。



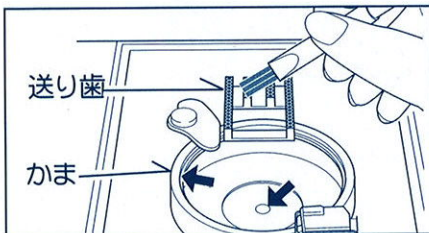
3 ボビンケースを図のように持ち上げて取り出します。ボビンケースに付着した糸くずも取り除いておきます。



4 送り歯やかま周辺の糸くずやほこりをブラシや布で取り除きます。ミシン油を ← 印の部分に一滴さします。

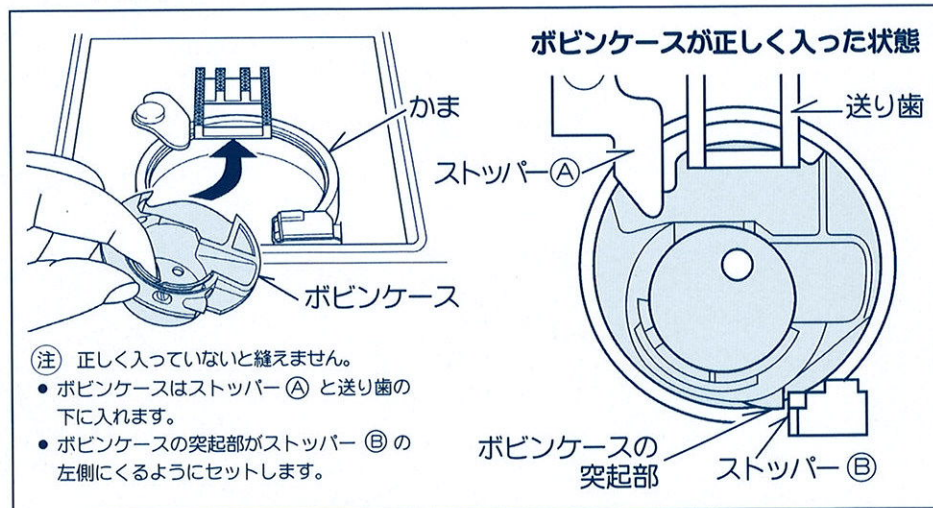
①注 油はミシン油を使用してください。

②注 さしすぎた場合はきれいにふき取って下さい。布や糸が汚れるなど、縫いのトラブルの原因となります。



5 ボビンケースをかまに戻します。

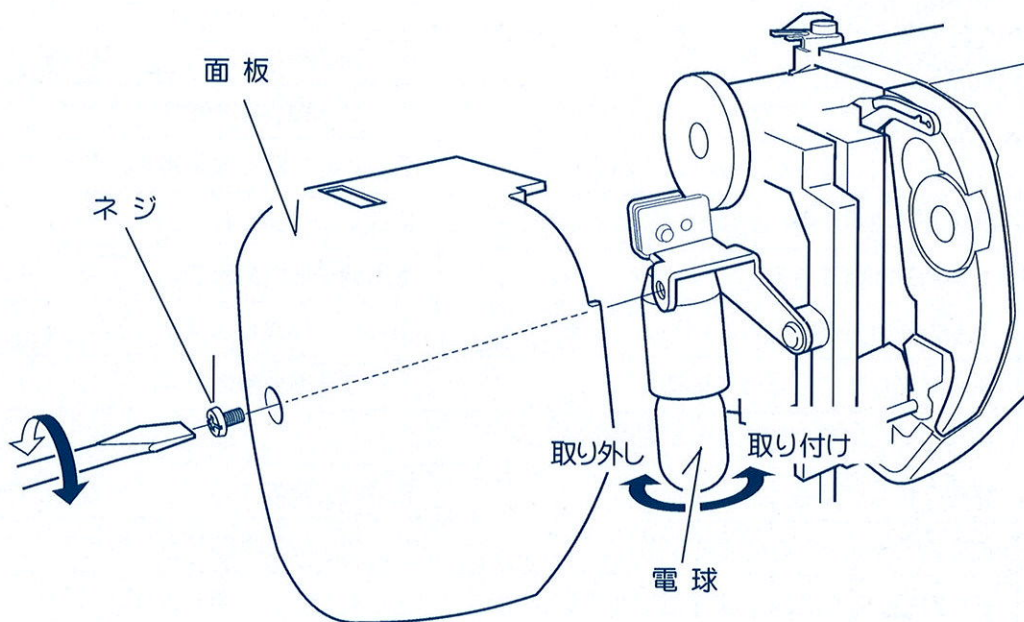
③注 正しくセットしないと、針がボビンケースに当たり、傷がつき、縫えなくなる恐れがあります。



6 針板用ネジ回してネジをしっかりとめて、針板を取り付けます。

電球の取りかえ

- 1 電源プラグを電源から抜いてください。
- 2 ネジを外し、面板を取り外します。
- 3 電球を左に回して取り外し、新しい電球(110V、15Wネジ込み式)を右に回して取り付けます。
①15W以上の電球は使用しないでください。
- 4 面板を元の位置に取り付けます。



4. ミシンの調子が悪いとき、次の原因を確かめましょう ……

こんな時には	原因	対処	参照ページ
ミシンが回らない	下糸巻き軸が右になっている。	下糸巻き軸を左へ押しします。	11
	電源コードがただしくセットされていない。	正しくセットし直します。	5
	電源スイッチが“OFF”の位置にある。	スイッチを“ON”の位置にセットします。	5
回転が重い 音が高い	送り歯やかまに糸くずやごみがたまっている。	糸くずやごみを取り除きます。	37
	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	13
布を送らない	押えを下ろしていない。	押え上げを下ろして、押えを下げます。	-
	縫い目長さダイヤルが“0”の位置にある。	ダイヤルを“1～4”に合わせます。	-
	厚物縫いの場合		23
	送り歯が下がっている。	送り歯調節レバー操作で、送り歯を上げます。	8
縫い目がとぶ	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	13
	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	13
	針が針棒のいちばん奥まではいっていない。	正しくつけ直します。	13
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	24
	上糸の掛け方が間違っている。	正しくかけ直します。	14
	糸くずがかまにたまっている。	糸くずを取り除きます。	37
	縫いにくい布地の場合		23
針が折れる	無理に布を引っ張った。	布は軽く案内するだけにしてください。	-
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	13
	針が針棒のいちばん奥まではいっていない。	正しくセットし直します。	13
	押えが正しく取り付けられていない。	押え止めネジを締め直します。	-
	段縫いの場合		23

こんな時には	原因	対処	参照ページ
糸が布と針板の間でだんごになる	縫い始めに上糸と下糸を向こう側に引き出していない。	常に両糸をそろえて押えの下から向う側へ10cmほど引き出します。	16
上糸が切れる	上糸の掛け方が間違っている。	正しくかけ直します。	14
	上糸調子が強すぎる。	上糸調子を弱めます。	24
	布に合った針・糸を使っていない。	布と針・糸の関係を合わせます。	13
	針が曲がっている。	新しい針と取り換えます。	13
下糸が切れる	ボビンケースの糸の通し方が間違っている。	正しくセットし直します。	12
	糸くずがボビンケースやかまにたまっている。	糸くずを取り除きます。	37
縫い物にしわがよる	糸調子が強すぎる。	糸調子を弱めます。	24
	針が曲っている、先がつぶれている。	新しい針と取り換えます。	13
	薄物に対して縫い目が大きい。	縫い目を小さくします。	-
	薄物縫いの場合		23
上糸がかまにからまって取り除けない	上糸をすこしゆるめ、プーリーを手前に回して糸を引き上げます。		-
	かまにからまっている糸をはさみで切って取り除きます。		-
	ボビンケースの位置がずれている。	正しい位置にセットします。	37

株式会社 ジューキ

本社 / 〒102-0073 東京都千代田区九段北1-11-11 TEL 03(3265)2851(代表)

札幌 011 (737) 6821 仙台 022 (239) 3705 新潟 0250 (43) 4451
東京 03 (3265) 8741 名古屋 052 (917) 3671 大阪 06 (6768) 3651
倉敷 086 (473) 0355 広島 082 (227) 5781 福岡 0942 (44) 7921

修理等のご依頼はお買い上げの販売店を通じてご連絡ください。

(BC6200) 032004-JA

お客様へ _____

お買い上げ日、販売店名を記入されておきますと、修理などのときに便利です。

お買い上げ日	年	月	日
販売店名			